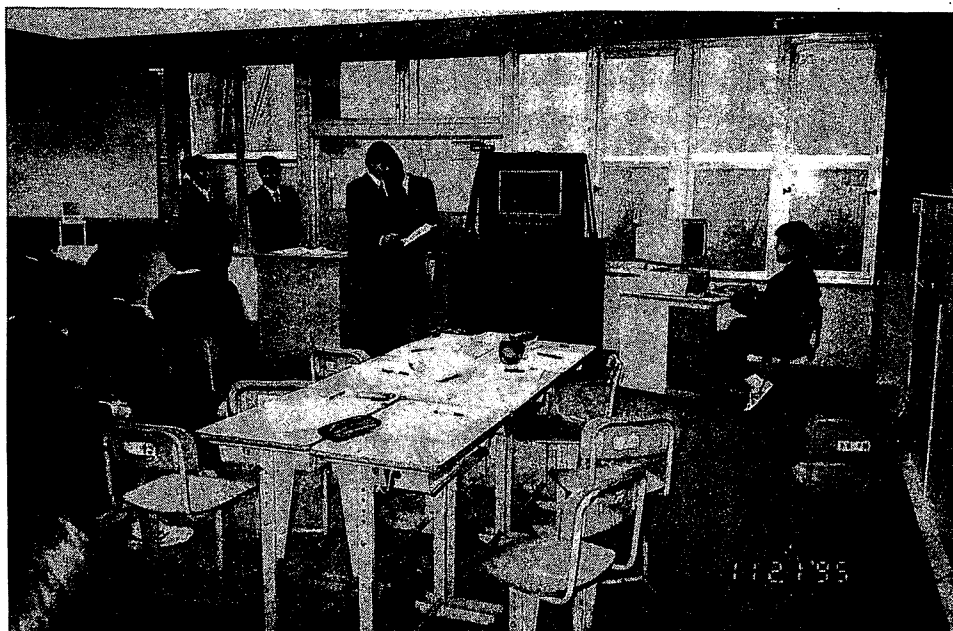


平成9年度研究協力員報告書

# 校内研究運営資料集



浦西中学校

I 校内研究計画

II 研究集録のまとめ方

III 研究発表会実施計画

浦添市立教育研究所

## はじめに

昨年7月浦添市立小・中校の研究主任（16人）に「校内研究の実態」に関するアンケート調査（資料1参照）を実施した。その結果以下のことが分かった。

- ① 市内の研究主任の経験年数が小学校で平均1.5年、中学校で1.3年である。
- ② 1～2年目の経験者が全体の70%（11名）を占めている。
- ③ 中学校では、ほとんどが1～2年目の経験者である。

また、校内研究運営上の課題点として以下の①～④があげられた。

運営上の課題点	課題改善への提言
①研究時間の確保	年度末に研究計画を作成、年次計画の設定（ <u>研究範囲の限定</u> ） 研究日の定例化（週時程への位置付け）
②教師の意欲喚起 授業者の選定	日常的な教員の使命の喚起（校長・教頭）、計画的な校内研究運営（ <u>推進委員会</u> ）、校内研究関係情報の提供： <u>見通しの持てる校内研究（研究主任）</u>
③テーマ・内容の 決定	学校の教育課題の <u>具体的な実態把握</u> （諸検査等）に基づいた研究課題の設定や内容の決定
④研究内容に係わる 資料収集	<u>市立教育研究所、県立教育センター</u> の図書・研究報告書等を活用する。

以上のような実態や課題等を念頭に入れると、研究主任への教育委員会側からの支援や各学校での校長を中心とした支援が重要であることが分かる。平成7年度から本市教育委員会指導課が実施している「研究主任研修会」は、研究主任の職能研修、情報交換の貴重な場になっているものと考ええる。

今回、当研究所でも研究主任の校内研究運営の一助になればと考え、研究協力員で校内研究運営の手引きになる資料集『校内研究運営資料集』を作成した。

学校では、校内研究の関係図書等にじっくり目を通すのが困難な状況だと考える。そこで、以下のような編集方針で本資料集を作成した。

- ① 上記アンケートで分かった課題の改善になるような内容にする。
- ② 即実践に使える具体的な内容にする。
- ③ 市内の実践事例や校内研究関係の参考書等をもとに作成する。

校内研究の運営に関する詳しい内容は、資料編に掲載してある図書が研究所の図書室にもあるので利用いただきたい。

最後に、本資料が校内研究運営の一助になれば、研究協力員一同幸いである。

研究協力員 浦添市立浦城小学校教諭 手登根 宏  
浦添市立宮城小学校教諭 前 城 努

研究協力員担当 市立教育研究所指導主事 嵩 原 安 哲

# 目 次

## はじめに

<b>I 校内研究計画</b>	
1 本校教育のめざすもの	1
2 研究方針	2
3 これまでの研究の成果と課題	3
4 本年度の目標	3
5 本年度の研究	4
(1) 研究目標 (2) 研究の仮説	4
(3) めざす子ども像 (4) 研究方法	5
(5) 研究組織 (6) 活動組織	6~8
(7) 授業研究会の形態と研究班の組織	9
(8) 研究授業計画	9
(9) 研究計画と研究経過	10
(10) 長期休業中の計画	12
<b>II 研究集録のまとめ方</b>	
1 教育論文の一般的形式と校内研究集録の内容例	13
2 研究主題・副題の設定について	14
3 主題設定の理由について	15
4 研究の計画について	16
5 研究の目標について	16
6 研究の仮説について	17
7 研究の内容について	19
8 実践の記録について	20
9 研究の成果と今後の課題について	23
10 引用文献・参考文献の記述の仕方について	10
11 原稿用紙の使い方について	25
<b>III 研究発表会実施計画</b>	
1 意義 2 期日 3 形式	27
4 当日の運営	28
5 発表会までの準備	29
6 係分担	29
7 発表会の運営	33
8 茶話会	36
9 発表会事後処理	36
10 その他	36
<b>資 料</b>	
資料1 研究主任アンケート	43
資料2 ( ) 科学習指導案形式	47
資料3 授業分析表	49
資料4 校内研究の評価	51
資料5 研究集録作成分担	53
資料6 研究集録印刷要領	54
資料7 校内研究運営参考図書	55
資料8 コンピュータ・プレゼンテーションソフトで作った発表資料	56
参考文献	57

# I 校内研究計画



仲西幼稚園

# I 校内研究計画

下記の校内研究計画の項立に沿って事例を紹介する。

## 校内研究計画の内容例

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1 本校教育のめざすもの    | 5 本年の研究              |
| 2 研究方針          | (1) 研究目標 (2) 研究の仮説   |
| 3 これまでの研究の成果と課題 | (3) めざす子ども像 (4) 研究方法 |
| 4 本年度の目標        | (5) 研究組織 (6) 活動組織    |
|                 | (7) 授業研究会の形態と研究班の組織  |
|                 | (8) 研究授業計画           |
|                 | (9) 研究計画と研究経過        |
|                 | (10) 長期休業中の計画        |

## 1 本校教育のめざすもの

港川小H8・9年度研究紀要の例

### 本校教育のめざすもの

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 学校の座標軸

「継続と創造」(継続)・・・日常の実践継続から → 伝統を  
(創造)・・・想像、直観、思考から → 創造を

##### (2) めざす学校像

「うるおいと、ぬくもりと、躍動のある学校」

・うるおい = 自然環境 → 花と緑、文化の香り  
・ぬくもり = 人の温かさ → お互いのよさを認め合う  
・躍動 = 学校の動き → いっしょに考え、創造していく姿

#### 2 本校教育目標

##### (1) 総括目標

「自ら進んで学習し、心身ともに健康で、心豊かな子の育成」

##### (2) 具体目標

・強いからだところをもった子  
・すなおで心の豊かな子  
・自主的でよく考える子

#### 3 めざす児童像

「進んで学習し、健康で、心豊かな子ども」

・健康・・・強い子・・・(たくましい心と体)  
・自ら学習・・・考え創意する子・・・(自己教育力、豊かな学力)  
・心豊か・・・たのもし子・・・(豊かな人間性)

#### 4 本年度の重点目標

目標 **個のよさを見つけ、その伸長に徹する**

	↓		↓		↓		↓
意義	子ども	個性	児童理解	可能性	専門性		
	↓	↓	↓	↓	↓		
視点	全人教育	人間観	人間愛	自己実現	信愛・援助		

#### 5 本年度の努力点と指定研究

##### (1) 本年度の努力点

「明るくあいさつをしましょう」  
「静かにはなしを聞きましょう」

##### (2) 指定研究

平成6、7年度は浦添市教育委員会の指定を受け、「豊かな情操を養う創造活動の工夫～意欲的にとりくみ豊かな表現を楽しむ図工の授業づくり」のテーマで研究を推進した。一人一人の内面を表現させる授業づくりと学校美術館の開設等の美的な環境づくりによって、想像力と豊かな感情を発揮する自分の表現に自信をもたせ、友だちの思いに共感させることができた。

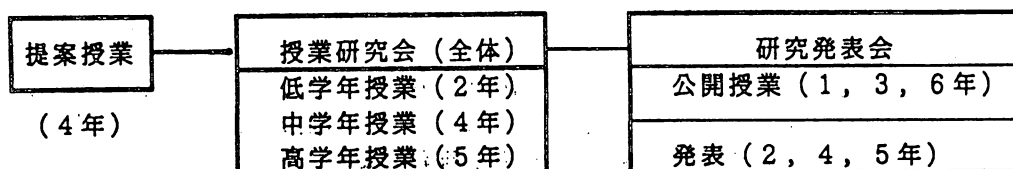
本年度から新たに、研究テーマ「世界の国々を知りみんなと仲良くしよう～やさしさを発揮できる子の育成をめざして」と広く世界に立脚して教科のわくを超えて、情操のうち「やさしさの発揮」に焦点をあてて指定研究を継続したい。国際理解は人間の尊厳への共感に始まる。生活習慣やことばの違いを乗り越える心と心の交流が肝心である。心を開く出会いのあいさつと興味深くはなしを聞き相手を尊重する態度の育成をもとにして、どこの国の人にも自分を表現できる国際感覚を身につけさせたい。

## 2 研究方針

<仲西小H 8年度研究紀要の例／IV研究の方法・1方針より>

### 1 方針

- (1) 全職員の共通理解と共通実践の基に推進する。
- (2) 一人一人が研究の主体者であるという認識と自覚の上に立って研究に取り組む。
- (3) 理論研究と日々の実践を通して、研究を進める。今年は特に授業実践を通して、研究を深める。
- (4) 全体研究、学年授業、いずれも、仮説－授業－反省・評価を一貫して行う。
- (5) 学習過程の改善をめざして、研究を進めていく。子どもの変容をめざし、授業研究会をできるだけ多く持つようにする。
- (6) 2年間の見通しを持って、研究日程を無理なく計画し、充実した研究が行われるようにする。
- (7) 学年部会、全体会のいずれかで全員が研究授業（検証授業も含めて）を行うことを基本とし、誰が、いつ研究授業をするか、低・中・高部会で話し合い、年間の計画を立てる。
- (8) 全体研究研は、3回実施する。全体授業研の前に、提案授業を行う。
- (9) 1年次の研究発表会を11月19日に行う。公開授業、及び研究発表を行う。



- (10) 研究発表会までに紀要を作成し、研究発表会後は、次年度のテーマの見直し、内容の掘り下げ等、今年度の課題を整理し、次年度の計画を立てる。

<琉大附属小の例>

### 1 研究方針

- (1) 大テーマ『自ら学びとる力を育てる授業の創造』のこれまでの実践研究の成果をふまえ、発展させるように今年度の実践研究を深める。
- (2) 「授業の創造」という目標絶えず認識して、授業の事実に即して実践研究を展開する。
- (3) 実践研究は組織研究を主体とし、本校の教育目標を具現化するための研究をする。
  - 全体主題を受けて、各教科・領域部は研究主題を設定して研究を深める。
  - 各個人は各教科・領域部の研究主題を受けて研究を深める。
- (4) 指導助言者、あるいは講師として学部教官、公立学校の教諭、教育センターの指導主事、本校OB等を招へいして研究を深める。
- (5) 実践研究の成果の共有化の方法を明確にして、実践研究が一步一步積み重ねられるものにしていく。
  - 「授業研究情報」を発行する。（各授業者）
  - 実践研究資料の収集・整理・保管・活用をする。（指導案、本校紀要、他校の紀要類等）
  - 研究室の活用（資料保管・活用、研究活動）
  - 授業録画の推進と授業研究会での活用（録画テープの保管・整理・活用、授業記録の分析方法の研究）

### 3 これまでの研究の成果と課題

<宮城小・H8年度研究紀要（一部修正）>

本校では平成6年度に校内研究テーマを「基礎・基本を重視した算数指導の在り方」と定めた。これは平成2年度以来取り組んできた問題解決的学習指導の実践研究の結果明白になった「基礎・基本の定着をどう図っていくか」という課題の克服をめざすものであった。児童に基礎的・基本的な知識、技能がしっかりと身につかない限り、問題解決の過程において思考（拡散的・創造的）を働かせることができず、思考力、問題解決力を育て、伸長することはできないという事実にも数多く直面した結果でもあった。そのため問題解決に生きて働き、多様で柔軟な思考を促す「基礎・基本」の内容の検討とその定着を日常的・組織的にどう取り組んでいくかということが切実な課題として共通に確認されたとともに諸研究を通して多くの成果と課題を得た。（平成6年度紀要参照）

平成7年度は浦添市教育委員会の指定を受け、研究の軸を前年度に大きな成果を得た基礎力テスト（問題の作成実施・分析結果の活用を通して個々の実態を把握し、より個に応じた治療学習や指導の工夫・改善を図る）の活用であると捉え、サブテーマを「本校基礎力テストを活かした算数指導の在り方」と定めた。ここでは前年度に得られた課題に加えて、より精選された問題を中心にあらためて作成・実施した基礎力テストの結果を分析・考察することや、達成度テスト・学力検査等の結果との比較検討を全職員で行うことを通して分析を深め、あらためて共通の課題を確認することで、より個に応じた授業の実践化を図り、日々実践することをめざしていきたい。

### 4 本年度の目標

<宮城小・H8年度研究紀要（一部修正）>

市指定研究の最終年次となる本年度は、これまでの研究の成果や課題をあらためて捉え直しながら、児童の興味・関心といった部分に着目して研究を深化させることで児童の学習意欲の向上をめざしていこうとするものである。

本校のこれまでの研究の中でも基礎・基本とその内容についてはその年度々において述べられたきたが、本年度は下記の内容の実践化を基にそれぞれの見解を深めていきたい。またこれら研究の課程における多くの理論や実践活動によって、算数科の目標や重点目標をはじめ、本校教育目標の具現化をめざしていきたい。

- 教材論を深め、教材・教具の工夫・活用を図ることで児童の興味・関心を高める。
- 比較検討の場をさらに工夫し、問題解決に意欲的に取り組ませる授業展開を図る。
- 基礎力テストの分析結果を生かし、より個に応じた指導を通して「わかる授業」・「参加する授業」の実践化を図る。

## 5 本年度の研究

### (1) 研究目標

#### <内間小H 8年度研究紀要の例>

##### 体力づくりの目標

今日、学校教育においては次のような「体力づくり」に関する課題がある。

- ①運動・スポーツを日常のライフスタイルとして位置づける児童生徒の育成をどう図るか。
- ②教科体育を基盤として、学校体育全体をどう活性化させるか。
- ③運動の必要性を認識させるための「体操」の学習指導をどう展開するか。

児童の屋外での遊びは貧弱・不足傾向にあり、上記課題を含め次のような目標を持って取り組むこととする。

「自己の体力を知り、運動の必要性を意識しつつ、しかも楽しみながら運動実践する子供」を教科体育・教科外体育・学級活動その他における実践を通して、どのようにして育てたらよいかを模索・実践するものである。そこで、教師は運動技能のレベルにのみ評価を協調し、児童に学習不安を持たせない楽しい授業づくりと実践を展開することを目標としたい。

### (2) 研究の仮説

#### <内間小H 8年度研究紀要の例>

##### 研究の仮説

研究主題

一人一人が、体力に関心を持ち、楽しく取り組む体力づくり

研究を教科体育・教科外体育・健康教育の分野から進め、子供達が自主・自発的に運動実践を進める能力（自分の体力をみつめる・そこからめあてを持つ・めあての達成に向けて取り組む・自己評価し新たなめあてを持つ）を育てる学習活動・学習過程を大切に、体力づくりの各場面を継続的に連関させ意識づけていくことによって、一人一人の児童が運動と自己の体力への関心を高め、自己の状態にあわせながら運動に親しみ、生涯にわたって運動する習慣を築き上げていくであろう。

##### 教科体育

体力を重点的に考え・学習する「体操」の領域の授業の工夫・改善を進め、運動の必要充足とそのため知識、技能を学び、それを他の領域・単元に生かすという教科体育の構想で進めることによって自己の体力への関心の高揚と実践力を育てることができるであろう

##### 教科外体育

児童の興味の高い運動の行事化や体力づくりの日常化を図れそうな遊びの紹介・器具などを充実させ、児童が活動する場を増やすことによって、自分に合った運動を見つけたり実践したりすることができるであろう

##### 学級活動

養護教諭との連携を図り、児童の健康・衛生の実態調査、状況を公開をしたり、年間を通して重点事項をしぼり（本校では、「食事指導」）授業を実践することによって、体力における防衛体力面についての知識・理解の深まり、そして、実践力が高まるであろう。



### (3) めざす子ども像

#### <宮城小H 8年度研究推進委員会における事例>

「自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の創造的な知性を磨き、身近な事象に興味・関心を持って働き掛け、課題に対して既知の体験や知識技能を活かして自ら解決していこうとする子」

#### <琉大附属小の例>

「自ら課題をみつけ、解決し、さらに追求する課程の中で、学ぶ意欲、学び方、知識技能・感性を振り返ることによって自分自身を良く理解し、他と協調しながら意欲を持って学習する子ども。」

### (4) 研究方法

#### <宮城小H 8年度研究紀要の例／一部修正>

- 各学年とも教材論を深め、教材の系統性を明確にする。
- 興味・関心を持たせ、学習意欲を高めるための教材・教具を開発する。
- 問題解決に意欲的に取り組ませる授業展開を追求する（比較・検討の場の工夫）
- 分かる授業・参加する授業を開発する。
  - 興味関心を引き出す工夫
  - 多様な考え・方法を引き出す工夫
  - 効果的な比較・検討の場の工夫
- 学習態度の育成や家庭学習の定着化を図るため、保護者との連携強化を図る。

#### <琉大附属小の例>

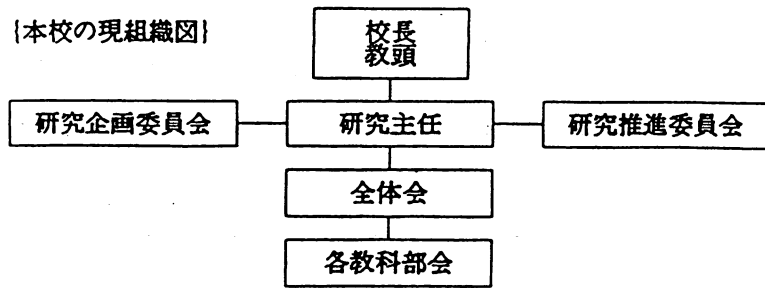
- 単元目標を分析し、教師側の評価の基準を持つ。
- 自己概念を育てるための自己評価活動を組織する。
- 単元レベルでの子どもの変容を捉える。
- これまでの授業の構成要件を組織した授業設計をする。
- 仮説を設け、仮説を検証する。

(5) 研究組織

＜H7 県立教育センター研修報告集録収録・校内研修を活性化させる学校経営

具志川市立具志川中学校・大野教諭＞

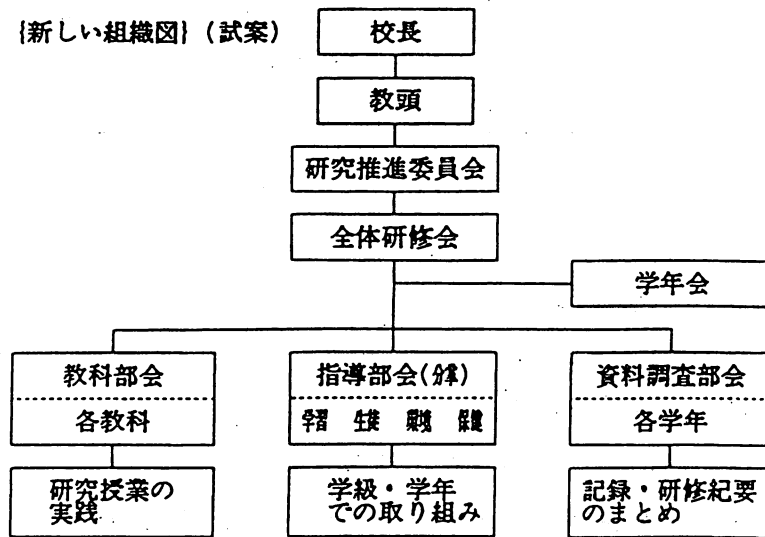
〔本校の現組織図〕



〔問題点〕

- ① 研究企画委員会と研究推進委員会が別々に立案しているので合理的でない。
- ② 各教科部会のみでの研究組織になっていて各学年会、教科外領域が位置付けされていない。
- ③ 校務分掌との関連が見られない。

〔新しい組織図〕(試案)

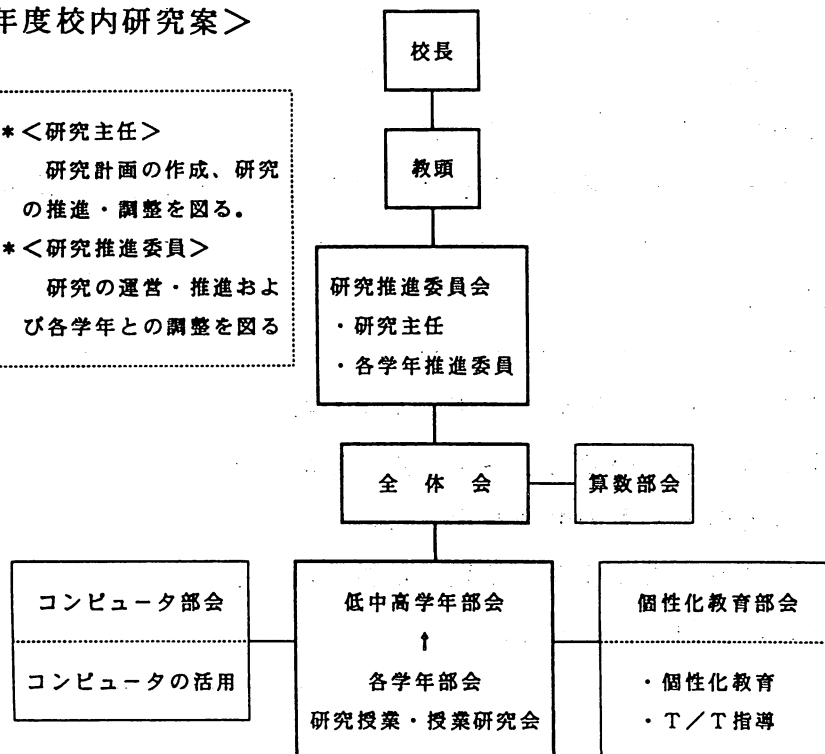


〔特色〕

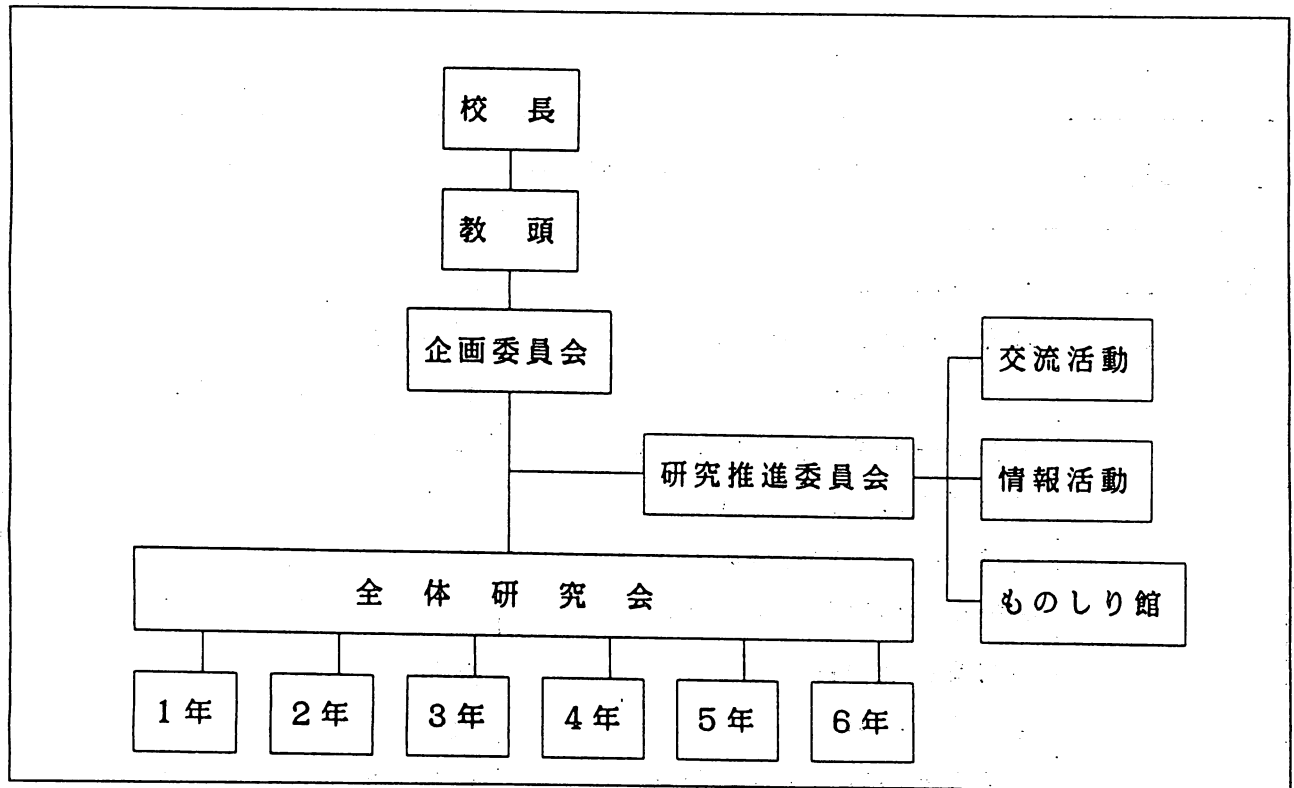
- ① 学年の考え方を吸収したり、学年に対して情報を伝達する体制ができる。
- ② 校務分掌との関連ができ、研究課題が適材適所で取り上げられ、地域、家庭との連携ができる。
- ③ 資料調査部ができ、情報の収集が拡大した
- ④ 学級・学年での活動が全体に反映できる。

＜宮城小・H7 年度校内研究案＞

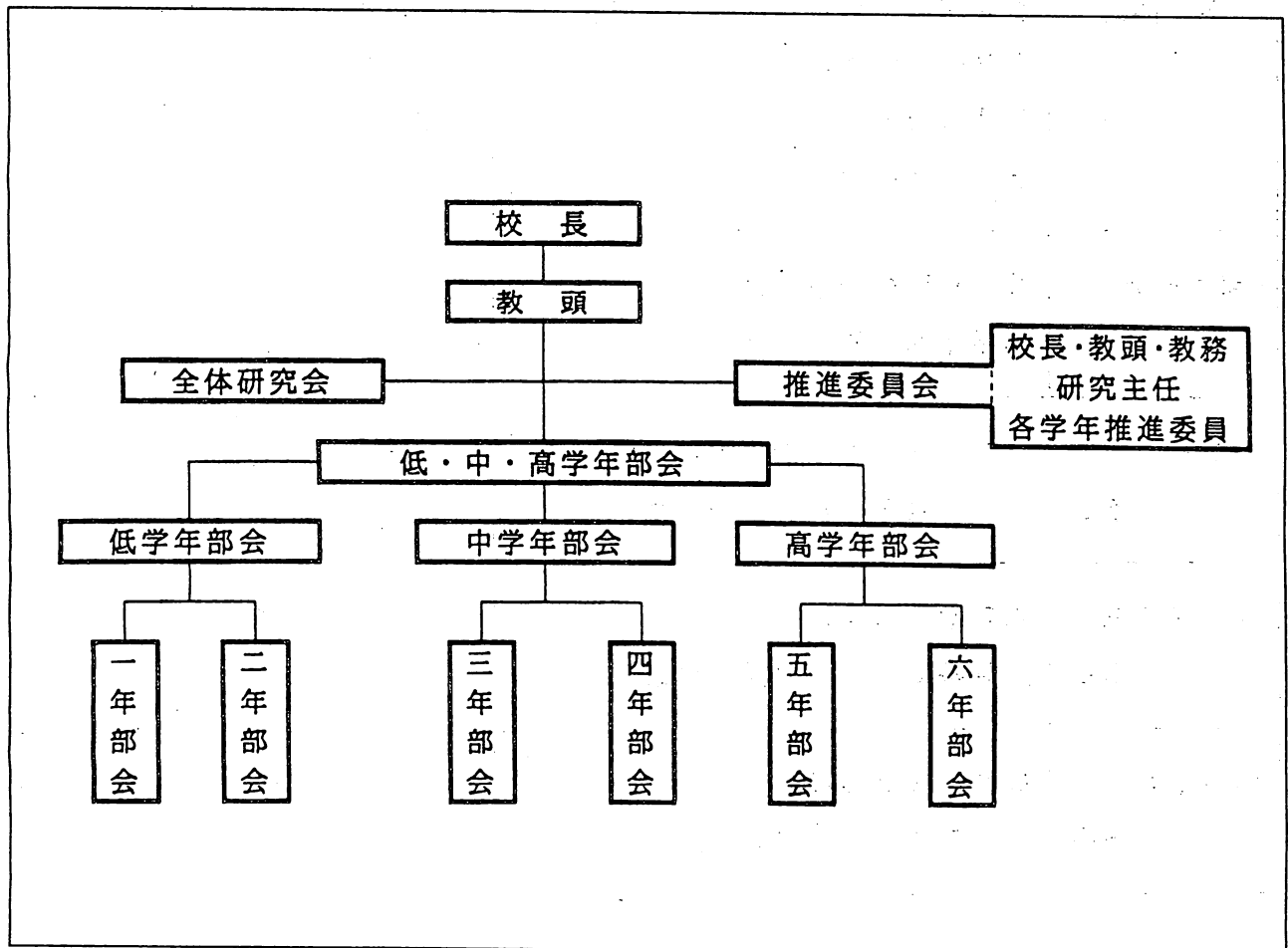
\*＜研究主任＞  
研究計画の作成、研究の推進・調整を図る。  
\*＜研究推進委員＞  
研究の運営・推進および各学年との調整を図る



<港川小H8・9年度研究紀要の例>



<仲西小H8年研究紀要の例>



## (6) 活動組織

組 織	内 容	
連絡・調整会	要望・意見等の事前説明・連絡調整	校長・教頭・教務・研究主任
推進委員会	研究計画の企画・立案 研究の推進と各学年間の調整 アンケート調査の計画・実施・集計 アンケート調査分析結果の考察 研究授業指導案の形式立案 授業研究会の内容等の計画 研究紀要の編集計画・準備 印刷業者との打ち合せ等 全体会の計画 P T Aとの連携・連絡調整 図書備品購入計画	研究主任・研究副主任 各学年推進委員 研究主任・研究副主任 推進委員 推進委員 該当学年の推進委員（提案） 教頭・研究主任・研究副主任 教頭 研究副主任 校長・教務・P T A担当 研究主任・推進委員・会計
学年部会	各学年内における研究の推進 各学年の実践内容のまとめ 研究授業計画 研究会計画	各学年推進委員・他職員 各学年推進委員・他職員 各学年推進委員 各学年推進委員
隣学年部会	隣学年間の授業支援 隣学年間の研究会支援	各学年推進委員・他職員 各学年推進委員・他職員
コンピュータ 部会	コンピュータの活用推進計画 ソフト購入・講習会の計画	コンピュータ主任
算数科研究 部会	算数備品の管理 算数科についての環境整備	算数科主任・算数科部員
個性化教育 部会	個性化教育の推進 T・ティーチングの実践	第4学年担任・個性科教育担当

(7) 授業研究会の形態と研究班の組織

<宮城小H / 6年度研究案>

- 授業研究（実践研究）は、低学年部、中学年、高学年部に分かれ、それぞれの隣学年が連携の上で研究を進めていく。
- 学級担任は全員1回以上の研究授業を大研究授業あるいは小研究授業の形で行う
- 研究会の呼び方を次のようにする。
  - ・全体研究会・・・全体での話し合い・検討・確認・伝達
  - ・隣学年部会・・・低学年・中学年・高学年部会での話し合い。
  - ・学年部会・・・学年での話し合い。
  - ・大研究授業・・・全職員を対象にした研究授業
  - ・小研究授業・・・学年内における研究授業
- 研究発表会は2月の下旬をめどに行い、発表は大研究授業を行わない学年が担当する。

(8) 研究授業計画

<宮城小研究紀要の例>

	期 日	学年	形 態	単 元	授業者	共 同 研 究 者
1	9月21日	1年	全体研	たし算－2	与那城奈津子	新垣・大湾・大石
2	10月1日	2年	隣学年研	かけ算－1	古波蔵 君江	田港・大嶺・謝敷
3	10月4日	3年	隣学年研	わり算－3	町田 順子	具志・仲村・前原
4	10月28日	5年	隣学年研	台形の面積と公式	前城 努	普天間・古謝・飛田・金城
5	11月1日	4年	全体研	垂直と平行	内間 おりえ	伊江・桑江・島袋
6	11月22日	6年	全体研	立 体	松川 邦昭	中村・山城・前泊・石嶺

～平成5年度研究紀要～

(9) 研究計画と研究経過

① 研究計画

<内間小H8年度研究紀要の例>

	一年次 (平成6年度)	二年次 (平成7年度)	三年次 (平成8年度)
事項	○児童や環境の実態把握に基づく研究組織・計画を立案する。	○研究課題に対する方策を具体化し実施する。	○研究計画に基づいた実践と三年間の研究のまとめを行う。
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態把握</li> <li>・研究方針やテーマの検討</li> <li>・実践方法の検討</li> <li>・研究組織づくり</li> <li>・一年次内容の実践(体操)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の反省と方向の確認</li> <li>・二年次内容の実践「体操」「他領域」</li> <li>・各部の活動の模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の反省と方向の確認</li> <li>・三年次内容の実践「体操」を一学期に固定化「他領域」授業づくり</li> <li>・各部の活動の定着</li> <li>・研究の反省とまとめ</li> <li>・継続的研究内容の検討</li> </ul>
活動内容	①研究テーマの検討・設定 ②実態調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力診断テスト</li> <li>・運動能力テスト</li> <li>・生活リズム</li> <li>・歯の健康</li> <li>・運動実態(所属や人数)</li> <li>・運動意識</li> </ul> ③研究組織と活動の検討 ④研究計画 ⑤施設・遊具等環境整備計画 ⑥体育教育研究と改善 ⑦体育科年間指導計画の作成  *一年次研究発表会	①研究テーマの見直し ②実態調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>(前年度内容の追跡、比較分析を目的として)</li> </ul> ③各専門部の活動展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示教育 体育朝会</li> <li>・授業展開 健康と安全</li> <li>・ギネス大会等の行事企画</li> </ul> ④施設用具、器具等の改善 ⑤「体操」授業づくり ⑥「他領域」の授業づくり ⑦部活動の見直し ⑧年間指導計画の見直し検討  *二年次研究発表会 *研究の成果と課題	①研究テーマの見直し ②1・2年次研究の方針・進め方などの見直し  ③実態調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>(前年度内容の追跡、比較分析を目的として)</li> </ul> ④各専門部の改善と展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示教育 体育朝会</li> <li>・授業展開 健康と安全</li> <li>・ギネス大会等の行事運営</li> </ul> ⑤各種体育的行事の見直しと充実(内容や運営方法等) ⑥「体操」授業の充実 ⑦「他領域」の授業の実践 ⑧運動や遊び環境の整備 ⑨学年運動行事の検討・実践 ⑩年間指導計画の再検討 ⑪運動の生活化・継続化の件 *三年次研究発表会 *研究の成果と課題確認、継続研究の内容検討
授業研究の取り組み	1. 体操(試み) (1・2・3・5・6年) 2. ボール運動 (4年)	1. 体操(充実) (1・2・3・6年) 2. ボール運動 (4・5年) 3. 健康教育 (5年「食事を考える」)	1. 体操(固定化) 全学年1学期に実施した。 2. ボール運動 (1・2・3・4年) 3. 器械運動 (5・6年) 4. 健康教育 (全学年「食事を考える」)
	「水泳」は、一年次から進級基準づくりや学習内容を検討して、学年単位で推進。		

② 研究経過

<内間小H8研究紀要の例>

《第1年次》

月	事項	担当	概要
7月 8月	授業研究会 講話	4年	○<仲西起寅>「跳び箱運動」 ○講話(上地幸市指導主事)「体力づくり推進校の役割—体育教科研究校との違い」
9月 10月 11月	授業研究会 授業研究会 授業研究会 一年次研究発表 会 縄跳び集会 専門部会 学年研究部会	2年 5年 1年 3年 6年 体育部	○<岸本幸野>「ボールを使っただけの体力づくり」 ○<仲宗根勝也>「用具を使った体力づくり」 ○<澤岬美智子>「なわを使っただけの体力づくり」 ○<仲宗真・黒島・松田>「体力づくりの運動」 ○<垣花陽子>「縄やボールを使った体力づくり」 ○第1回縄跳び集会 ○一年次研究の反省と課題確認 ○研究のまとめ(記録の整理など)

《第2年次》

月	事項	担当	概要
6月 7月	授業研究会 授業研究会 授業研究会	3年 5年 6年	○<仲宗真綾子>単元「ボールを使った体力づくり」 ○健康教育研究部<東風平こずえ>「食生活を考えよう」 ○<上原妙子>「縄などを使った体力づくり」 ○西部地区実技講習会の伝達講習会
9月	ギネス大会 授業研究会 講演会 二年次研究発表 会	外体育 1年 4年 健康教	<仲宗根勝也>「ボール運動における場の工夫」を中心に ○第1回内間小ギネス大会 ○<銘苅佐織>単元「マット遊び」 ○<新里和也>単元「バスケットボール」 ○<経塚綱理場・森山克子>「食事の大切さ」>父母対象 ○二年次研究発表会 ①公開授業発表(2年)<長浜京子>「マット遊び」 ②公開授業発表(5年)<東風平こずえ>「サッカー」 ③口頭発表 研究概要・・・仲西 中学年・・・新里 健康教育部・・・上原 教科外体育・・・銘苅 皆泳指導・・・吉浜
12月 3月	研究会参加 研究職員会	2年 5年	○文部省「体力づくり」研究発表会参加(東京) ○三年次の研究課題と方向の確認

《第3年次》 (平成8年11月までについて)

月	事項	担当	概要
5月	研究職員会		○最終年次の研究方針・方向と組織・割り当て確認 ○新職員へ2年間の研究概要・経過の説明
6月	授業研究会	2年	○<日高和美>「ドッジボール」 ○「むし歯の治療と予防」<下地 玲子先生>
7月	授業研究会 授業研究会	6年 5年	○<徳元哲博・仲宗根勝也>「マット運動」 ○<伊舎堂初美・宮城洋子・吉浜幸雅>「跳び箱運動」
8月	講演会	推進部	○筑波大学教授「佐伯聰夫先生」 演題「生涯スポーツ時代の体力づくり」
9月 10月	ギネス大会 研究会参加 授業研究会 講演会 授業研究 発表会	外体育 3年 健康教 健康教	○第2回内間小ギネス大会 ○体力づくり研究発表会参加(福岡県・伊舎堂・澤岬・上運天) ○<長浜京子>「ポートボール」 ○講演「朝食の大切さ」<森山 克子先生> ○「食事と健康」について3～5学年で実施
11月	最終年次研究発表 会  研究職員会	1・4年 その他	①公開授業 1年<上原妙子>「ドッジボール」 4年<新里和也>「ハンドボール」 ②口頭発表 研究概要・・・吉浜 幸雅 調査統計部・・・仲宗真綾子 教科外体育部・・・長浜 京子 ○発表会の反省と今後の進め方の確認

(10) 長期休業中の計画

<琉大附属小の例>

<夏休み>

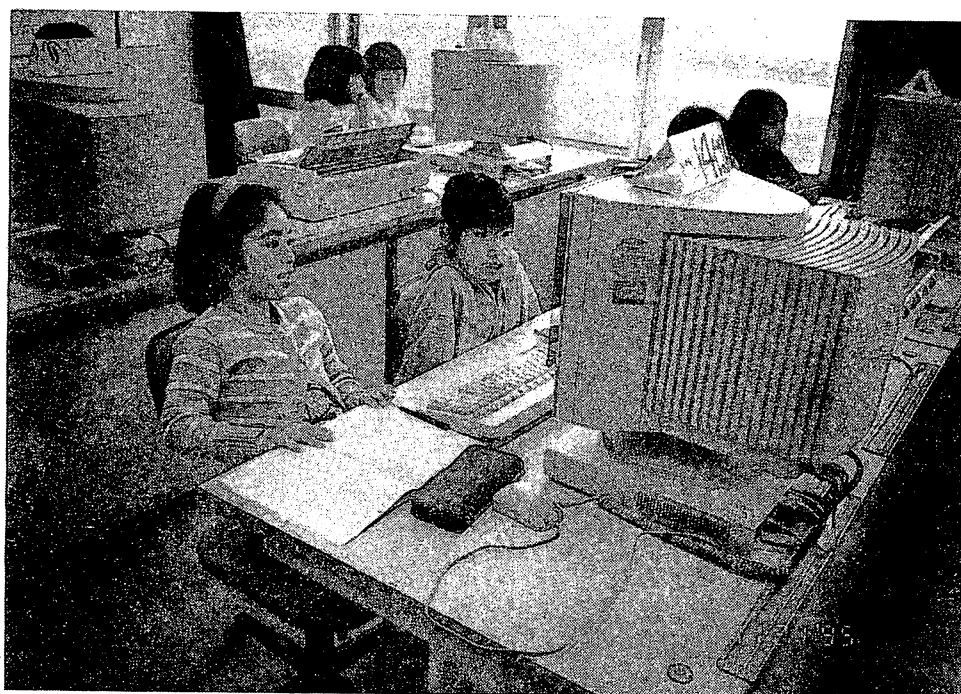
月	日	曜	全体研究会	研究紀要	公開研究会に向けて
7	29	月	研究概論の点検		
7	30	火	各教科部の研究プロット検討 ①		
7	31	水	各教科部の研究プロット検討 ②		
8	1	水		紀要執筆開始	
8	26	月		各教科部等の紀要原稿検討会 ①	
8	27	火		各教科部等の紀要原稿検討会 ②	

<冬休み>

12	27	金	研究推進部 学習会	
1	4	土	研究推進部 学習会	



## II 研究集録のまとめ方

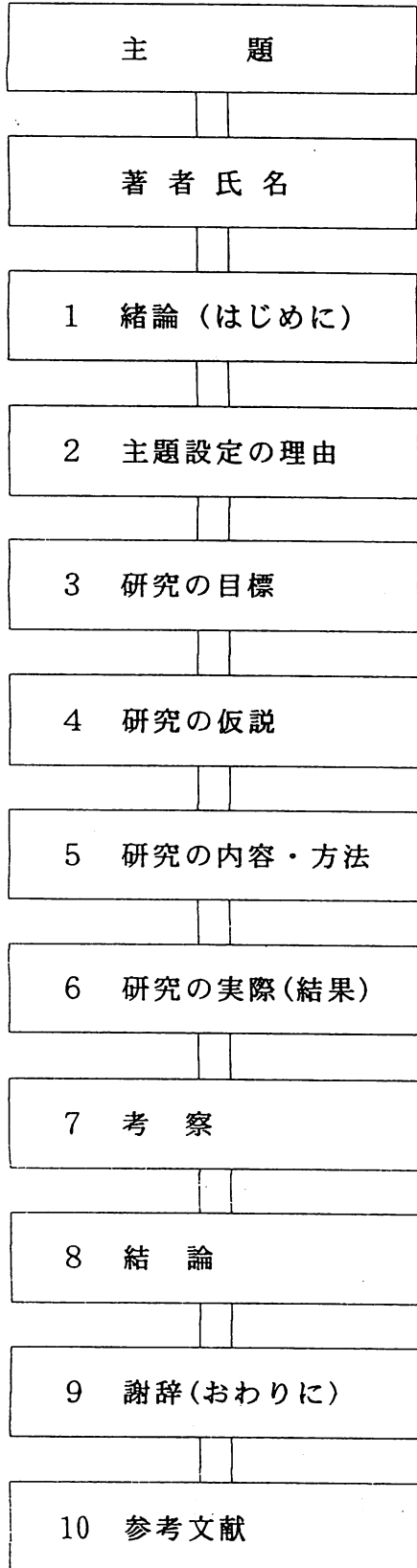


前田小学校

## II 研究集録のまとめ方

### I 教育論文の一般的形式と校内研究集録の内容例

#### 教育論文の一般的形式



序  
論  
10  
~  
20  
%

本  
論  
70  
~  
80  
%

#### 校内研究集録の内容例

<p>研究主題</p> <p style="text-align: right;">○○○学校</p> <p>はしがき</p> <p>1 本校の概要</p> <p>2 主題設定の理由</p> <p>3 研究の計画</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 研究の方針</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 研究の組織</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 研究の経過</p> <p>4 研究の目標</p> <p>5 研究の仮説</p> <p>※6 研究の内容</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 研究の構想図</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) .....</p> <p>7 実践の記録</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 第1学年</p> <p style="padding-left: 40px;">① 指導案</p> <p style="padding-left: 40px;">② 指導記録</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 考 察 (事後テスト, 協議会記録, 子供の声等)</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 第2学年</p> <p>8 研究の成果と課題</p> <p>あとがき</p> <p>参考文献</p>	
---	--

## 2 研究主題・副題の設定について

### 1 研究主題（テーマ）

#### (1) 主題設定の視点

- ①時代や地域社会の要請 ②学習指導要領の趣旨 ③学校教育目標の具現化  
④教師の年度末の反省 ⑤児童・生徒の実態 ⑥指導技術の向上

#### (2) 主題は、研究の顔

論文の内容を簡潔で的確に表していること。一見して研究全体のイメージが浮かぶ表現であること。

#### (3) 主題に含まれる要素

- A 研究のめざす姿 「～をめざす」「～を育てる」等で表現される。  
B 研究の対象・領域 「～においては」「～の研究」等で表現される。  
C 研究の方法（手だて） 「～をとおして」「～による」等で表現される。

例 1

問題解決学習による主体性の育成に関する研究

C A  
-算数科の学習をとおして-  
B

### 2 副主題

- (1) 一般的には、主題で研究のめざす姿を表現し、副主題で研究対象・領域を焦点化したり、手だてを書く。

例 2

生き生きとした活動をめざす特別活動の研究

-学級活動の自主的な運営を中心として-

- (2) 主題で手だてまで示し、副主題でその方向性を示す場合。

例 3

学習過程における評価とその生かし方

-基礎・基本の定着をめざして-

- (3) 長期計画で研究を継続していく場合は、主題を固定して副主題でその年次の内容を示すことが多い。

例 4

1年次 自ら学ぶ態度を育てる学校図書館の活用（'95浦西中）

-読書活動を充実し、図書館の親しむ態度を育てる（興味）-

2年次 -資料を活用して、課題解決の力を身につける（定着）-

3年次 -自ら発見した課題を解決し、学習や生活に役立てる（応用）-

### 3 主題設定の理由について

#### 1 主題設定の理由

- ① 問題提起の意味であり、主題設定の根拠とされ、序論として重要なものである。
- ② 本論の説明のようなもので、自分達は「何を問題にしたのか」「その問題をどのような視点から検討するのか」「どのような結論を引き出そうとするのか」を明示し、読み手に知らせるものである。
- ③ 社会の要請、教育理念、学校課題、教科であればその本質をふまえて、問題の歴史や従来の研究の分析し、主題の必然性を述べる。
- ④ 学習者の実態等を考察し、研究の目的をはっきりさせ、主題の課題性や必然性を浮き彫りにする。

まとめると、この研究は、何のために行うのか、何の役に立てようとしているのかなど研究の意図を明らかにするものである。

#### 例 5 「主題設定の理由」の構成例 (H6港川中学校)

自己教育力を高める教科指導の内容・方法の改善  
－課題意識を持たせるための学習指導の工夫・改善 (理科)－

##### I 主題設定の理由

###### (社会の要請から)

今日の科学技術の発達は、生活に豊かさをもたらすとともに、変化の激しい社会をつくり出した。21世紀は、国際化・情報化が発展し、価値観の多様化が一層進むものと予想される。このような社会を逞しく生きぬくためには社会の変化に主体的に対応できる能力を育成することが必要である。学校教育は、生涯学習の基盤づくりとして、進んで学ぶ意欲と進んで学習する態度を身に付けさせ、知識や技術の量的な注入ではなく、思考力・判断力・表現力を育成することがたいせつである。

###### (教育目標から)

教育課程審議会は「社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や自ら学ぶ意欲を高めること」を答申の一つとしてあげている。本校でも教育目標として「広い心と健やかな体、自ら学ぶ意欲と主体的な判断力をもち、ねばり強くたくましい生徒」を掲げ、さらに具体目標として「心豊かな生徒」「ねばり強い生徒」「たくましい生徒」「自ら学ぶ生徒」の育成を学校教育の全領域を通してその実現に努力している。

の、その打開のための研究とか調査等もあまりされていない現状である。

###### (生徒の実態から)

本校は、部活動が盛んで生徒は、明るく、話を聞く態度がよい。その反面、学習の仕方が分からず主体的な学習態度に欠ける面がある。このような本校生徒の実態のもとで「学習に対する興味・関心の高揚」「主体的な学習への取り組み」等を解決するためには、観察・実験・調査・見学などの体験的な活動や課題解決学習等を通して、学ぶことの楽しさやものごとを成し遂げたときの充実感を体得させることによっ「自ら学ぶ生徒 (自己教育力)」は育成できものと考ええる。

###### (本研究の目的)

以上のような三つの面からテーマを設定し、教育課程編成の改善と理科・英語の指導法の工夫・改善を図るために行なうものである。

#### 4 研究の計画（方針・組織・経過）について

研究主題を解明するためや研究の仮説に対する検証のためにどのような組織をつくりどのような方法と手順によって研究を推進したか等を記述する。

研究の経過は、どのように研究が進められたか概観できるようにまとめる。経過を月別にまとめて示す場合や継続研究の場合などの年次毎にまとめる方法がある。運営的な内容として掲載を省略する場合もある。

#### 5 研究の目標について

研究目的は、最終のねらいであり、研究者の願いとも言える。研究の目標は、研究の最終のねらいを到達させるための具体的なねらいである。

##### 1 研究の目標

この研究で明らかにしたいこと、追究すべきことを箇条書き等でできるだけ簡潔に記述する。

###### 例 6

「自ら学びとる力」を育てるために、自己評価活動を取り入れた授業を組織することによって、学習意欲の高まることを検証する。

###### 例 7

説明文の指導の問題点を明らかにし、学習指導要領に基づいたて望ましい指導のあり方を究明する。

###### 例 8

ソシオメトリック・テストの活用を通して、好ましい友人関係の育成を目指した学級経営のあり方について探究しようとするものである。

###### 例 9

本校の開発した指導法が〇〇〇や〇〇〇に与えるに効果について調べようとするものである。

###### 例 10

衛星通信を利用した効果的な学習や交流のあり方について調べようとするものである。

## 6 研究仮説について

### 1 研究仮説の意味

問題に直面したとき、その解決策について「ああしたら」とか「こうしたら」とか、考えをめぐらす。そして、「よし、こうしよう」と決断をする。これが一種の仮説である。研究仮説とは、研究問題に対する可能な答えであるといえる。

例えるならば、「〇〇〇を高めるためには、〇〇方式（指導法）を適用したらできるであろう。」といったものである。

### 2 研究仮説のポイント

次に挙げていることが正しい研究仮説のポイントである。

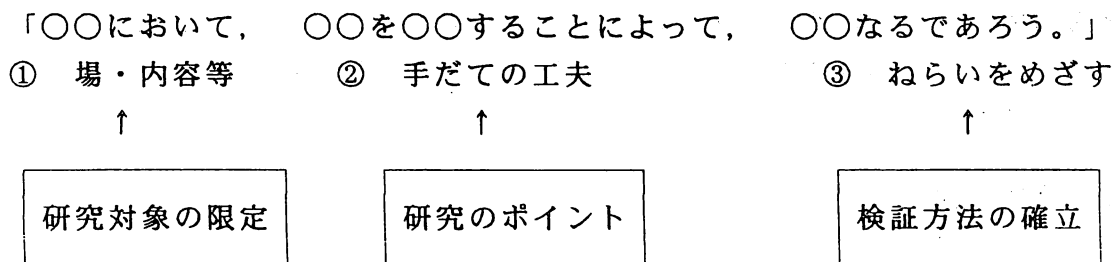
正しい仮説は

- 観察された事実と合致する。
- すでに知られている真実と背馳するものであってはならない。
- できるだけ簡明なことばで述べられなければならない。
- 演繹的推理に堪えられる。

### 3 研究仮説の設定条件

研究仮説には下記の①・②・③の条件が必要である。

【研究仮説のモデル】



①・・・「場を」示し、研究の対象・領域を規定する。「教科の領域」を示すこともあるだろうし、「学習過程」や「時間」「内容・素材」を示すこともある。

②・・・「手だての工夫」を示す。ここに研究の重要性・有効性が凝縮されているといっても過言ではない。これまで行ってきた方法や内容を変更してどのように新しい工夫を入れようとしているのかが示されている。したがって、できるだけ具体的に書かれる必要がある。

この場合、上の表現だけでは不十分なことが多く、具体的な内容（手だて）を箇条書きすることがある。この上の部分が一般的な仮説の場合、「基本仮説」となり、箇条書きした下の部分が「作業仮説（具体仮説）」となる。

③・・・児童生徒の変容の姿が示されるのが普通である。研究によって児童生徒をどのように変えようとするのか、めざす児童像が示される。これによって何を検

証していくのかが決まるのである。例えば「～読解力が高まるであろう。」ということになれば、「読解力が高まる」ということをどのようにとらえるかが検証の中心になる。

以上の①・②・③の条件を研究仮説を立てる立場から考えてみると、次のようにまとめられる。

- |                                 |                  |
|---------------------------------|------------------|
| ① どこで（対象，場）・・・・・・・・・・           | 研究の領域を限定する       |
| ② 何をどのようにすることによつて（内容・方法上の工夫）・・・ | 研究の重点を決める        |
| ③ どう現状を変えようとするのか（子どもの変容の姿）・・・   | 研究の結果を予測し，筋道を立てる |

#### 4 基本仮説と作業仮説及び授業仮説

研究仮説に基本仮説と作業仮説がまとめられて記述されたものと、基本仮説、作業仮説を別々に項目だてた記述の仕方がある。

- 基本仮説・・・一般仮説ともいわれ、直接的には検証が難しい広い範囲での仮説になる。教科等の研究仮説がその例である。
- 作業仮説・・・具体仮説ともいわれ、直接に検証できる仮説でなければならない。
- 授業仮説・・・1時間の授業における研究仮説である。具体的には、作業仮説の一部であったり、またそのものである場合がある。

#### 【基本仮説・作業仮説の具体モデル】

### Ⅲ 研究の仮説

#### 1 基本仮説

ソシオメトリック・テストを活用し、学級の実態に応じた指導・援助の手だてを実践することにより、好ましい友人関係の育成を目指した学級経営ができるであろう。

#### 2 作業仮説

- (1) ソシオメトリック・テストを実施し、分析することにより、学級内の友人関係が明らかになり、指導・援助の方向付けができるだろう。
- (2) 調査結果を考察することで個人や集団の問題点が明らかになり、指導・援助の方向付けができるだろう。
- (3) 調査結果を活用したグループ編成を行い、親和的・有効的関係の深まりに配慮した、手だてを実践することにより、個人及び集団の好ましい変容が促せるであろう。

作業仮説の表現の仕方としては、モデルの例からも分かるように文末表現が「～であろう」とか「～のはずである」の他に、手だてを抜き出して「～（手だて）によって」という表現もある。

## 7 研究内容について

研究の内容のまとめについては、研究目的を達成するため、どのような手だてを構想しているかを論理的にまとめいくところである。

### 例 14

〈テーマ「豊かな情操を育てる創造活動の工夫」図工科の例（H6港川小）〉

#### ○ 研究の内容

- 1 一人一人が意欲的に題材設定の工夫
- 2 発想を生かす学習活動の展開
- 3 発想を誘発する教師の支援
- 4 子供の多様な思いを受けとめる技法の指導

〈テーマ「基礎的・基本的な算数の力を育てる指導」算数科の例（神森小）〉

#### ○ 研究の内容

- 1 基礎・基本のとらえ方
- 2 問題解決学習の過程

〈テーマ「地域の歴史・文化を学び、地域に誇りをもつ子どもの育成」教科等の例（H9浦城小）〉

#### ○ 研究の内容

- 1 研究の構想図
- 2 予想される児童のふるさと学習
- 3 現行の学習内容とふるさと学習の関連

〈テーマ「マルチメディアを活用した効果的な学習の工夫」教科等の例（H9前田小）〉

#### ○ 研究の内容

- 1 環境整備部の研究  
(1)学習資料班 ①基本的学習態度の育成 ②指導案の形式 ③… ④…  
(2)調査研究班 ①実態調査とその考察  
(3)メディア研究班 ①遠隔システムの特長 ②主要機器の機能性

〈テーマ「子どものつまずきに着目した指導の改善」理科の例〉

#### ○ 研究の内容

- 1 つまずきの調査とまとめ
- 2 つまずきを改善する教材の工夫
- 3 つまずきと指導の手だて



## 8 実践の記録について（結果と考察について）

どのような内容をどのような方法で実践し、仮説の検証を行ってかを明らかにしていくところである。学年や教科の授業実践等が主な内容で、仮説検証を視点においた授業づくりが大切である。学習指導改善を目指す教育論文では、下記の内容を書くのが一般的である。

- ① どんな内容のところを
- ② どんな学習指導案で授業を行ったか。
- ③ 指導の効果が事前・事後の調査等の結果どうだったか。

### 1 実践の記録のまとめ

実践記録のまとめ方は、実践の内容に応じて変わるが一般的には、次の例のような形をとることが多い。

#### 例 14

##### 「第1学年の実践」

##### 算数科学習指導案

○○○○

- 1 単元名
- 2 単元の目標
- 3 単元について
  - (1) 教材について
  - (2) 児童について
  - (3) 指導について
- 4 教材の系統と発展
- 5 児童の実態

- 6 指導計画
- 7 本時の指導
  - (1) 題材名
  - (2) 目標
  - (3) 授業仮説
  - (4) 展開
  - (5) 評価
- 8 授業記録
- 9 考察（事後テスト・研究協議会の記録・感想文等）
- 10 成果と課題

### 2 結果と考察について

研究の種類によって、結果の分析の仕方は多様であり、こうすればよいというものはない。しかし、実証的研究を基本とすると、次のようなことが考えられる。

- 研究仮説（作業仮説）に対して「はい」と言ってよいか、「いいえ」であるか。それとも、どちらとも言えないのか。
- 「はい」と言える根拠は何か、「いいえ」と言える根拠は何か。また、どちらでもない根拠は何か。
- 過大評価または過小評価していないか。

考察を行う上での注意すべき点は、実践事実の客観的考察をすることである。自説の確立に際しては、苦勞して行った研究であればあるほど、研究者の予想や希望が先立ち、事実の認め方が不確実になりやすい。その結果、データの解釈が甘くなったり



例5

【抽出児の変容について】

M男・D子・C男について時系列分析をして変容を確かめてみた(表5)。

表5 抽出児の変容(第1回4月→第2回7月)

	M 男	D 子	C 男
l s s s	-0.047→0.169	-0.016→-0.016	-0.016→0.100
相互選択数	0→3	0→1	1→1
被選択数	0→3	0→2	1→1
選択数	4→5	3→2	1→5
相互排斥数	0→1	0→1	1→0
被排斥数	3→5	1→3	2→1
排斥数	0→5	2→2	1→1

例6

説明が 15人	やさしかったので	できた 6人
話し方が	はずかしかったので	できなかった 4人
OHPや模型などが	多かったので	わかった 14人
質問やヒントなどが	少なかったので	わからなかった 4人
指名が	はやかったので	楽しかった 17人
気をつけてくれたことが	おそかったので	楽しくなかった
先生の見てまわることが	ていねいだったので	満足だった 9人
問題が 14人	ざつだったので	不満だった 3人
まとめが	わかりやすかったので	ひっちゃうだった 7人
ほめたり励ましてくれたことが	わかりにくかったので	あきあきした
	あったので	
褒めてくれたことが	なかった	
授業の進め方が 10人	おもしろかった	やる気が出てきた 9人
考える時間が	おもしろくなかった	やる気なくなってきた 2人
みんなで話し合ったことが	はっきりしていたので	3~5.....
	はっきりしていなかった	6~8.....
		9以上.....

このほかにも今日の授業で思ったことがあったら下に書いて下さい

図V-1 線結び内容分析

例7

(3) 子どもの感想文と意欲の評価から

・教科書だけでなく自分達の考えた方法で、できたのでとても楽しかった。(Y男)

・前の経験をもとにして、予想をたて、いろいろな方法で実験をしたのがとてもためになった。(S子)

・予想をして実験するとき、自分達の考えがあっているかわくわくしながらやったのでおもしろかった。(E子)

上記の子どもの感想の下線部分から読み取れるように「子どもの発想を生かす」ことは、主体的な問題解決活動を促進することがわかる。

表4は意欲の評価等に用いられるSD法の結果を「もっとやりたい」縦軸、「楽しかった」横軸に取り、各段階の人数を整理したものである。全員4以上の結果から意欲的活動と同時に、主体的な学習の結果が読み取れる。

表4

↑	5			1人	33人
	4			1人	3人
	3				
	2				
	1				
		1	2	3	4
					5
					楽しかった→

例8

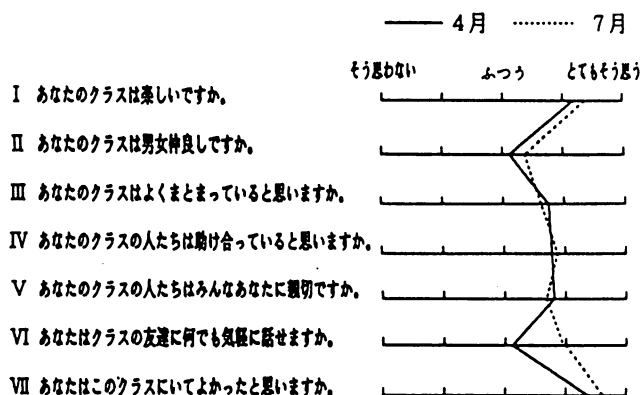


図10 学級の雰囲気について

- 例1) 研究報告集録第15号 P56 浦添市立教育研究所
- 例3) 研究報告集録第16号 P58 "
- 例4) " P59 "
- 例5) 研究報告集録第15号 P19 "
- 例6) 研究紀要第7集 P54 琉球大学教育学部附属小学校
- 例7) 研究紀要第7集 P66 琉球大学教育学部附属小学校
- 例8) 研究報告集録第15号 P19 浦添市立教育研究所

### 3 検証計画

特に作業仮説を設定した実証的研究においては、次の手順で作業仮説を検証するための計画をたてる必要がある。

#### 〔検証計画の一般的手順〕

- ① 作業仮説を検証するための学習計画や場の計画  
(どんな単元のどの場面を用いて検証するか)
- ② 作業仮説を検証するために仮説を反映した学習指導案の作成
- ③ 準備期間と研究期間の確保
- ④ 研究対象の選定  
(実験的手法を用いるときは、実験学級・対象学級を選定する。)
- ⑤ 各作業仮説に対する検証計画  
(作業仮説をいつ、どんな方法で検証するか)
- ⑥ 評価問題の作成

学校現場の実証的研究においては、作業仮説に立てたことの証拠集めが重要な意味をもってくる。質の違った証拠を数多く収集すれば、結論の蓋然性は、高まる。作業仮説の検証方法については、一覧表を作成して検討するとよい。

#### 〔作業仮説とその検証方法の一覧表〕

指導過程の段階	作業仮説		検証方法					
			授業		テスト	調査	提出物	作文・感想文
			発言	行動				
第1次-第 時	1		○		○			
	2			○				○
	3					○	○	

### 9 研究の成果と今後の課題について

研究の成果は、研究の主題、研究の仮説との関連性の上、研究結果をもとにして成果を簡潔にまとめる。

今後の課題は、研究の反省点を、研究の仮説と研究の内容と方法の両面から明らかにする。

## 10 引用文献・参考文献の記述の仕方について

- 引用するときは、「」を使い、その後( )の中に著者名、論文題名及び書名、ページ、出版社の順に記述する。

「○○」(太郎『書名』15ページ, 出版)

また、論文中の該当箇所に片カッコのついた数字<sup>1)</sup>, <sup>2)</sup>を入れて、論文末に引用文献または、参考文献として、番号順にまとめて載せる場合がある。

- 参考文献の記述の仕方は、著者名、書名、出版社、発行年の順に書く。

浦添太郎『書名』浦添出版 19 94

### 例15 その他の引用文献記載例

#### 単行本

- (1) 山田太郎 (1957) “農村社会の構造” 第4版 245—251 岩波書店 東京

①著者 ②年号 ③書名 ④版数 ⑤引用頁 ⑥発行所 ⑦発行地

長くても全部 改訂を伴わない  
記す ときは省く

- 2名までは省かぬ。
- 3名以上のときは、第1著者の次に「等」「*et al.*」をつけて省くこともある。
- 外国人の場合は次のように記す。

(例) Smith, A. E., J. F. Kennedy

#### 雑誌中の一論文

- (2) 太田静行 (1972) “公害と環境保全” 法律時報 89, 55—57

①著者 ②年号 ③論文名 ④誌名 ⑤巻(号) ⑥ページ

④定められた略号があればそれを用いる。⑤例えば Vol. 35, No. 8は35 (8)と略記する。⑥に通巻ページを書くときは、号数不要。

〈例〉 臨床医学=臨医  
Bot. Mag.

⑥論文全体のページ、引用部分だけではない。(単行本の場合とは違う)。

#### 単行本中の一論文

- (3) 高野学 (1957) “自然界における酸化物” 有機酸化物と工業

① ② ③論文名 ④単行本名

岡田一編 280—322 化学工業社 大阪

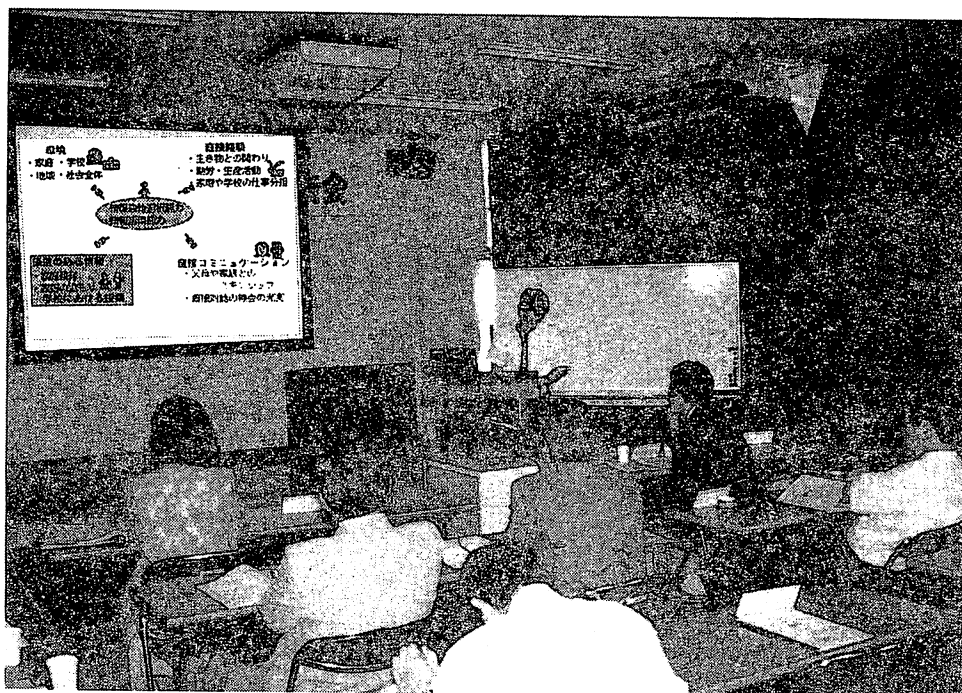
⑤編者 ⑥論文のページ ⑦発行所 ⑧発行地

(梅莖国夫氏による、「校内研究のすすめ方」第一法規出版)





# III 研究発表会実施計画



パソコンと液晶プロジェクターを利用した研究発表  
(OHPに替わる新しいプレゼンテーションの方法)



### Ⅲ 研究発表会実施計画

#### 1 意義

研究指定では、普通途中で研究の中間まとめや授業公開をし、そこで参会した人たちから意見を聞くことが多い。研究発表だけの場合もあるが授業を公開することが多いので、理論と実践の相違や、理論が児童・生徒に具現化されていない原因などについて検討し、さまざまな角度から意見を聞く。

研究がスタートしてからしばらくたち、ややもすると学校だけの狭い範囲のなかでの研究が進められているので、これまでの自分たちの理論や方向について再検討し、調整できるもの、欠けているものを整理して、さらに研究の深まりを図っていく。

#### 2 期日

研究発表会の日時は学校の行事や研究の見通しをもとに考えて候補を選定し、教育委員会と連絡を取り合って早めに日時を決定する。

#### 3 形式

考慮する内容は、公開授業、全体会、分科会、講評・講演などが考えられる。午前中から行うか、午後からか、公開授業を行うか、行うとすれば何学級か、研究協議会は、全体会だけか、分科会は開くのか、講師は講評だけをお願いするのか、講演を依頼するのか等、研究発表会の形式のよって準備の仕方が違うので、早めに決めておく。

##### (1)主な形式例

宮城小
①公開授業 (各学年1学級)
②授業研究会 (各教室)
③全体会 ・あいさつ(市) ・研究概要の説明 ・講評 ・講演 ・謝辞

内間小
①内間っ子タイム (全校業間運動)
②公開授業 (低・高一学級)
③全体会 ・あいさつ(県)(市) ・研究概要の説明 ・実践発表 ・専門部の発表 ・質疑応答 ・指導助言

神森小
(1)公開授業 低・高一学級 中学年TT授業
(2)研究発表会(分科会)
①研究発表 ②授業反省 ③研究協議 ④指導助言
※全体会なし

## 4 当日の運営

### (1) 公開授業

公開授業を行うとすれば、全学級を公開する、低・中・高から一学級抽出する、低・高から一学級抽出するなどが一般的である。全学級を公開すれば、学校全体で研究を推進している姿が見えやすい。しかし、取り組みへの個人の負担が大きいことも考えられる。年間を通しての研究授業や当日の全体会での発表などの分担を考えて、各学年が協力して校内研究を推進できるよう考慮すべきである。

### (2) 分科会

分科会は、行わないところが多いが、授業の反省がすぐ行われるので、参加者や指導助言者から得られることも多い。形式としては、授業後その場で行う場合や学年や隣学年で集まって行う場合が考えられる。

司会は、研究校の教師がする場合も考えられるが、客観的な立場から進行してもらうほうが効果と問題点が明らかになるので、他校の教師に依頼する場合もある。

分科会の進め方の例としては次のようなものがあげられる。

- ①開会（時間配分等説明）
- ②役員（助言者、司会者、記録者）紹介
- ③研究発表（研究内容説明、授業説明）
- ④研究協議（質疑応答、協議）
- ⑤指導助言
- ⑥閉会（参加者へのお礼等）

### (3) 全体会

全体会は、多くの場合体育館で行われる。司会は教務主任があたる。

- ① 開会行事の進め方
  - 1 開会のことば ————— 教頭が行う。
  - 2 あいさつ ————— 学校長、県・市の教育長（指定研究の区分）
- ② 研究発表の進め方
  - 1 研究概要発表 ————— 研究主任が行う。
  - 2 各部の発表 ————— 調査・授業・研修等、研究組織による。
  - 3 質疑応答 ————— 分科会を行った場合、省くことが多い。
  - 4 指導助言 ————— 県・市の指導主事に依頼する。
- ③ 閉会のことば ————— 謝辞として教頭が行うことが多い。

### (4) 講演

「講演」は、研究主題について専門としており、全国的な動向に詳しい人などがす

る。「講評」「講演」の両方がセットされているスタイルは、その全部が「講演」を重視していると考えてよい。時間も多くとっている。

- ① 講師紹介 ————— 校長が経歴などの紹介を行う
- ② 講演 ————— テーマとの関連ある話を中心に事前に交渉
- ③ 謝辞 ————— 講演がある場合はここで謝辞を行う。

## 5 発表会までの準備

### (1) 研究発表会の案内

研究発表会に多くの人に来校してもらうようにするためには、研究発表会の案内をくふうし、少なくとも1カ月前には、各学校、関係機関に届くようにする。

### (2) 研究発表の全体会場

研究発表の会場は、人数の関係から、体育館が使用される場合が多い。また、各会場から体育館までの移動の時間を考慮にいれ、参加者にこれまでの研究の成果を展示することにより、時間を有効に活用することができる。

さらに、会場設営のくふうをするとともに、研究テーマやバトンの題字の依頼を行う必要がある

### (3) 学校案内図

学校は、来校するものにとっては道順が不明なことが多い。幹線道路を起点にしてどの方角から来ても大丈夫なように立て看板を設置する必要がある。

### (4) PTAへの依頼

当日は、教員は、授業や研究発表などで、手の回らないことが多い。事前にPTA有志各位の応援などを検討しておく必要がある。その場合、当日の仕事内容などについて事前に十分打ち合せしておく。

## 6 係分担

### (1) 当日までの準備

係名	仕事内容	分担
総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渉外、講演講師依頼、講演講師との連絡</li> <li>・ 全体計画の立案</li> <li>・ 各係との調整</li> <li>・ 祝辞・講演依頼状の作成と送付</li> <li>・ 案内状、研究発表会要項の作成・送付</li> <li>・ 資料袋印刷の手配</li> </ul>	校長  教頭 教務

紀 要 指 導 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要、公開指導案の構成</li> <li>・原稿執筆の指示</li> <li>・印刷の手配、校正の指示</li> </ul>	研究主任
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来賓、講師用資料袋詰め</li> <li>・研究紀要、指導案の袋詰め（各学校用は別冊）</li> </ul>	（ ）年
発 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表原稿の作成、練習（TPシート等を含む）</li> <li>・想定質問への応答準備</li> </ul>	各発表者
施 設 設 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内外の整備、破損箇所の修理の手配</li> <li>・環境整備計画作成（清掃指導、お手洗いの整備、花鉢配置計画等）</li> </ul>	環境整備部
児 童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来客に対する礼儀作法（あいさつ等）の指導</li> </ul>	生徒指導部
看 板 表 示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎外表示板（学校案内、駐車場案内、校門の研究発表会）の作成・設置</li> <li>・各会場表示（全体会・分科会・授業会場）の作成・設置</li> <li>・全体会場内表示（研究主題、講演題、研究会表示、会順）の作成・設置</li> </ul>	（ ）年
設 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場設営</li> <li>・受け付け設営（テント設営の場合もある）</li> <li>・全体会場設営</li> </ul>	（ ）年
装 飾	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生け花（全体会会場、分科会会場）の準備</li> <li>・テーブルクロス（湯茶コーナー）の準備</li> </ul>	PTA事務
機 器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OHP、VTR、放送機器の点検と調整</li> </ul>	視聴覚主任
受 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリッパ、ビニル袋準備</li> <li>・受付用紙、筆記用具準備、領収書作成、参加者名簿、リボン、名札準備</li> </ul>	事務職員

接 待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湯茶、コップ、茶菓子の準備</li> <li>・茶話会用オードブル・飲み物等の注文</li> <li>・PTA協力者の仕事分担</li> </ul>	事務職員 教頭
記 録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会、全体会記録簿、筆記用具の準備</li> <li>・録音テープ、フィルム等の準備と配布</li> </ul>	推進委員
救 急	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬品等の購入、準備</li> </ul>	養護教諭
経 理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会経費の経理事務</li> </ul>	事務職員
アトラク ション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会場でのアトラクション企画 (吹奏楽、地域芸能、合唱等)</li> </ul>	部活動担当

(2) 当日の係

係 名	仕 事 内 容	分 担
総 務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運營業務の統括</li> <li>・講師・来賓・助言者との応対</li> <li>・研究会全体の進行と各係の連絡調整</li> <li>・チャイムの管理</li> </ul>	校長 校長 教頭研究主任 教務
会 場 設 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公開授業が体育館の場合）</li> </ul>	( ) 年児童
放 送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送機器の操作、調整</li> <li>・案内アナウンス</li> </ul>	視聴覚主任 教務主任
受 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来賓、講師、指導助言者、の受付</li> <li>・一般参加者受付</li> </ul>	PTA有志
案 内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来賓、講師、指導助言者の案内</li> </ul>	PTA有志
接 待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来賓、講師、指導助言者の接待</li> </ul>	PTA有志

	・一般参加者の接待（湯茶の準備、世話）	
撮 影	・会場スナップ、全体会の記録（写真、VTR）	推進委員
駐 車 場	・参加者車両の駐車場への誘導と駐車の手配	PTA有志
救 護	・救急時の処置	養護教諭
経 理	・参加費等の経理事務	事務職員

### (3) 後日の係

係 名	仕 事 内 容	分 担
総 務	・礼状の作成、送付（各学校、来賓、PTA協力者） ・参加者数の整理	教頭 教務
記 録	・分科会、全体会記録簿の回収保管 ・会場スナップ、全体会の記録（写真、VTR）の保管	教務
会 場	・全体会場腰掛け、テーブルの片付け	全職員
看 板 表 示	・校舎外表示板（学校案内、駐車場案内、校門の研究発表会）の片付け ・各会場表示（全体会・分科会・授業会場）の片付け ・全体会場内表示（研究主題、講演題、研究会表示、会順）の片付け	( ) 年
設 営	・テントの片付け（受付が外の場合）	男子職員
装 飾	・生け花（全体会会場、分科会会場）の片付け ・テーブルクロス（湯茶コーナー）の片付け・保管	PTA事務
経 理	・発表会諸経費の清算	事務職員

## 7 研究発表会の運営

- (1) 発表者 研究主任、各部研究部長等
- (2) 発表時間 研究主任（ 分）、各部長（ 分）
- (3) 発表要項の作成方法
  - ① 発表者は原稿を作成し、事前に研究主任に提出し、要項として作成する。
  - ② 発表者相互の関連を考えて原稿を作成する。
  - ③ センテンスを短くし、具体例を引用しながらできるだけ簡潔にまとめる。
  - ④ 大体280字を1分とし、それぞれ制限時間内にまとめる。
  - ⑤ 研究を通して明らかになったこと、今後の課題がはっきりわかるようにする。
  - ⑥ 発表原稿をもとにして、予想される質問内容を考えておく。
- (4) 発表の仕方
  - ① 発表内容と公開授業とが一体となっているようにする。
  - ② 研究による児童の変容を盛り込む。
  - ③ 参加者の顔を見て発表する。
  - ④ 発表者と機器を操作する人と一緒にリハーサルを行う。
  - ⑤ それぞれの発表に要する時間を計り、決められた時間内に終わるようにする。
  - ⑥ OHPやスライド等の視聴覚機器を用いて、簡潔でしかも具体的に説明する。
- (5) 研究発表進行用原稿例

1 開会	<p>「本日の研究発表会の進行を務めさせていただきます、本校教務主任〇〇〇〇です。よろしくお願いいたします。」</p> <p>「開会のことばを本校教頭〇〇〇〇が行います。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>《開会のことば》</p><p>「お待たせいたしました。ただいまから〇〇市教育委員会研究指定校として、本校が研究してまいりました『〇〇〇〇〇〇』についての研究発表会を開かせていただきます。」</p></div>
2 挨拶	<p>「本校校長〇〇〇〇がご挨拶を申し上げます。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>《校長あいさつ》</p></div> <p>「〇〇市教育委員会 教育長〇〇〇〇様にご挨拶を賜ります。」</p>

《教育長あいさつ》

「どうもありがとうございました。」

来賓紹介

「本校の研究発表に際し、ご指導ご助言を頂きます先生方、ご来賓の先生方を本校教頭〇〇〇〇からご紹介させていただきます。」

《助言者並びに来賓紹介を、教頭が行う》

研究発表

「これから、研究発表をさせていただきます。司会は、本校教諭〇〇〇〇〇が行います。」

① 研究経過及び概要

「本校の研究の経過と研究の概要を本校教諭 研究主任の〇〇〇〇が発表いたします。」

② 研究内容及び実践事例

「研究の内容及び実践発表として、はじめに、『〇〇〇〇』について、本校教諭〇〇〇〇が発表いたします。」

「つづいて、『〇〇〇〇』について、本校教諭〇〇〇〇が発表いたします。」

質疑応答

「ただいまの発表をもとに研究協議を行います。」 「これまで進めて参りました研究に対し何かご質問等があれば挙手でお願い致します。」  
「ここで、質疑等を終わらせていただきます。（時間を調整する）」

指導助言  
講 評

「ここで、本校の研究について、ご指導を賜ります。」

「本校の研究を担当されました〇〇市教育委員会指導主事〇〇〇〇先生にご助言をお願いいたします。」

「どうもありがとうございました。」

「これで、研究発表を終了させていただきます。」



<p>講演</p>	<p>「それでは、講演の準備ができます間、しばらく、そのままお待ちください。」</p> <p>「お待たせいたしました。ただいまから〇〇大学教授〇〇〇〇先生のご講演をいただきます。」</p> <p>「ご講演にさきだちまして、〇〇先生のご紹介を本校長〇〇〇〇からさせていただきます。」</p>
<p>謝辞</p>	<p>「ご講演をいただきました〇〇先生に本校校長〇〇〇〇が謝辞を申し上げます。</p> <div data-bbox="381 750 1398 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《謝辞》</p> </div> <p>「〇〇〇〇先生がご講演されます。盛大な拍手でお送りください。」</p>
<p>閉会</p>	<p>「最後に、本校教頭〇〇〇〇が閉会の挨拶を述べます。」</p> <div data-bbox="381 1144 1398 1263" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《閉会のあいさつ》</p> </div> <p>「以上で、研究発表会を終わらせていただきます。本日は誠にありがとうございました。」</p> <p>「なお、ささやかな茶話会を計画しております。……」</p>

(6) 司会者の心得

- ①ことば遣いは、歯切れよく明瞭に、抑揚をつける。
- ②予定時間に沿って進行するように努め、予定時間を超過すると予想される場合は、臨機の処置をとる。
- ③司会者の隣に、補助者をつけてもらい、司会者が気付いたことを、連絡できる体勢を整えておく。
- ④マイクロフォンの音量を事前に放送担当者と打ち合せをしておく。
- ⑤自校の職員の場合は、職名、氏名の順で敬称はつけない。

## 8 茶話会（反省会・慰労会・懇親会）

全体会終了後、全職員、PTA有志で会場片付けと茶話会準備をする。

(1) 会場 体育館

(2) 参加者 来賓、指導助言者、講師、参加者、本校職員、PTA関係者

(3) 準備と係

- ・ 司会進行
- ・ オードブルの世話
- ・ 紙皿、コップ、箸準備
- ・ 酒、清涼飲料水、氷準備
- ・ 会場設営、片付け
- ・ 放送準備
- ・ 会計

(4) 会 順

- ① 開会のことば ..... 司会
- ② 校長あいさつ ..... 校長
- ③ 来賓代表あいさつ ..... 県市教育長（代理）
- ④ 乾杯（会食） ..... 教頭（来賓代表）
- ⑤ その他のあいさつ（研究主任他） ..... 研究主任、PTA会長
- ⑥ 懇談 .....
- ⑦ 閉会のことば ..... 司会

## 9 研究発表会事後処理

(1) 反省会（懇親会・茶話会）

発表会が終わった後、引き続いて反省会を行う例が多い。懇親会と称することもあるが、講師や来賓にも出席してもらって、打ち解けた雰囲気話し合うことによって更に研究を深め、不足の部分も認識することも期待できる。

(2) 礼状の送付

発表会終了後、速やかに、参会者名簿をもとに必要な関係者へのお礼状をだす。

(3) 今後の研究への取り組み

なるべくはやめに研修会を開き、次年度へ向けての研究課題を設定する。

## 10 その他

(1) アンケート

研究紀要とともにアンケート用紙を同封し、意見や感想を寄せてもらい、今後の研

究に生かすようにしたい。その場合、書く方が負担にならないよう簡単なメモ程度がよい。しかし、回収率が悪いといういは認識しておいたほうがよい。

ご参会の皆様へ

アンケートのお願い

本日はお忙しいところ、ご参会していただきまして、誠にありがとうございました。皆様のご意見やご感想をお聞きし、私どもの反省の資料にしたいと存じます。お手数ですが、下記のアンケートにお答えいただき、会場入り口の箱にお入れくださるようお願い致します。

- 1 授業について
- 2 研究内容について
- 3 その他

ご協力ありがとうございました。

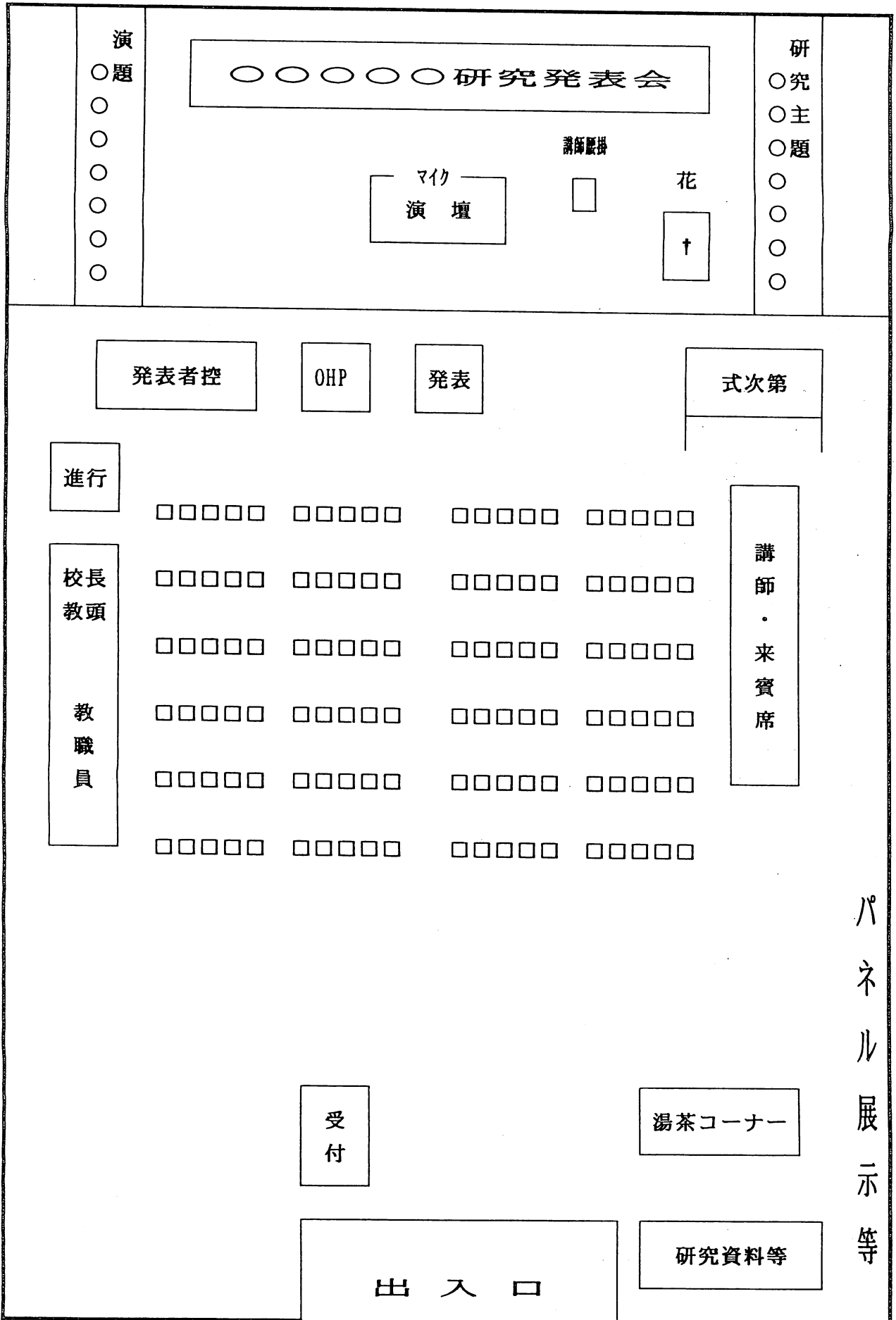
## (2) 発表会までの日程

研究発表会に向けての準備は数多いが、その中には何ヵ月も前からしなければならないことも多い。見通しを持って準備しなければならない。(2月発表の場合)

	研究紀要	公開授業	案内状等	庶務
10月	プロット案 執筆分担			講師依頼 役員依頼
11月	執筆開始	単元決定	発送者名簿作成	環境整備開始
12月	原稿締め切り 内容検討 原稿印刷渡し 原稿印刷校正	指導案形式 児童生徒作品整理	講師指導助言依頼 作成及び発送 (職場・本人)	研究発表会実施計 画案提案 PTA協力依頼



(4) 全体会会場設営例



全体会会場

平成9年11月19日

浦添市教育委員会 殿  
浦添市内各小・中学校長 殿  
関 係 各 位

浦添市立浦城小学校  
校 長 渡名喜一昌  
(公印省略)

平成9年～10年度 浦添市教育委員会指定研究  
「特色ある学校」研究発表会のご案内  
一年次

謹啓 皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます  
さて、本校では、平成9年度より浦添市教育委員会の指定を受けて、  
「特色ある学校」を研究領域として研究を進めてまいりました。  
この度、下記により1年次の研究成果を発表し、皆様のご指導、ご助  
言を賜り、今後の実践活動に生かしていきたいと思っております。  
つきましては、公務ご多用とは存じますが、貴職をはじめ、貴校職員  
のご参会をいただきたくご案内申し上げます。

記

研 究 主 題  
地域の歴史と文化を学び地域に誇りを持つ子どもの育成  
—— ふるさと学習をとおして ——

- 1 日 時 平成9年12月4日(木) 14:20～17:00  
2 会 場 浦添市立浦城小学校  
〒901-21 浦添市伊祖2丁目13番地1号  
☎098-877-3335 FAX 098-877-3293

3 時 程

受 付	公開授業	休憩・移動	全体会
13:50～14:20	14:20～15:05	15:05～15:25	15:25～17:00

4 公開授業 14:20~15:05

学年・組	授業者	単元名
1年1組	森本 聡	「ムーチーをつくろう」生活科
5年3・5組	仲田光枝・田場由高	「紅型をつくろう」図画工作科

※実践発表会

2年 「子どもが見つけたふるさと学習」(特別活動)

5 研究発表会 (15:25~17:00)

- (1) 開会のことば
- (2) 学校長あいさつ
- (3) 研究発表

- ① 研究の概要
- ② 低学年の実践
- ③ 中学年の実践
- ④ 高学年の実践

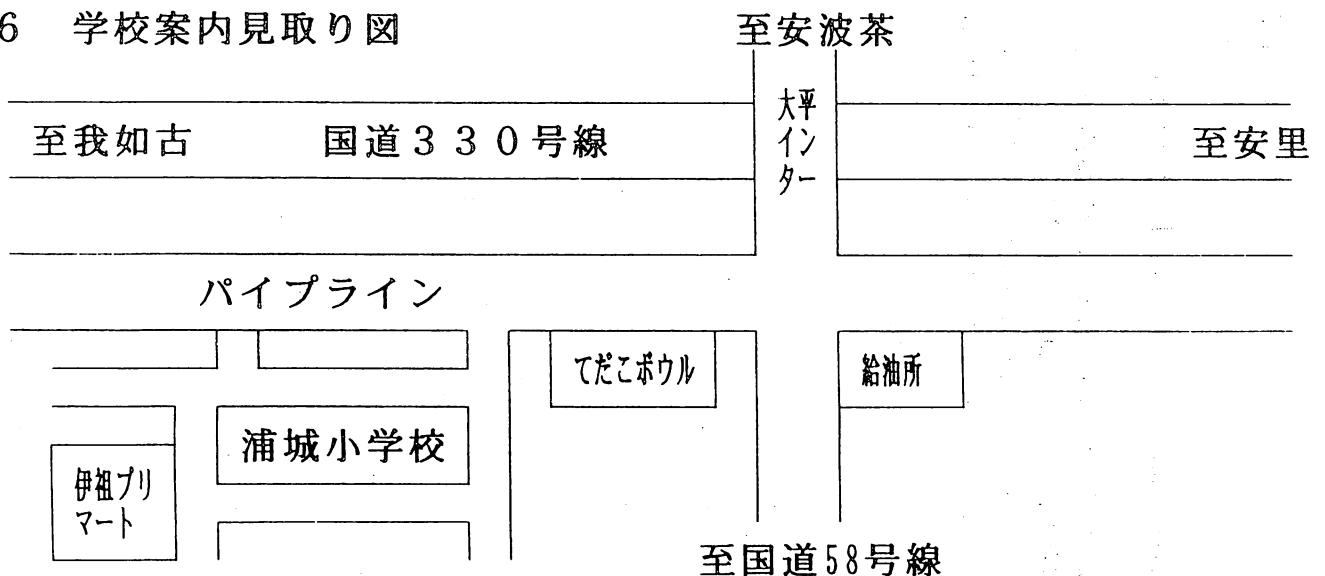
- (4) 質疑応答及び意見交換
- (5) 指導助言
- (6) 教育長あいさつ
- (7) 閉会の言葉

司会(教務) 手登根 宏  
 教 頭 島袋盛光  
 校 長 渡名喜一昌

研究主任 田場由高  
 2 年 米盛栄子  
 3・4年 作田五木・上江洲やえ子  
 6 年 國仲辰彦

浦添市教育委員会 指導主事 伊禮厚子  
 浦添市教育委員会 教育長 福山朝秀  
 教 頭 島袋盛光

6 学校案内見取り図



※ 自家用車でおいでの方は、運動場裏門からお入りになって運動場に駐車してください(校舎改築のため会場はプレハブ教室です)

平成〇年〇月〇日

PTA役員各位

〇〇市立〇〇小学校  
校長 〇 〇 〇 〇

〇〇〇研究発表会「接待・案内・駐車場」系の協力依頼について

貴殿におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から本校の教育にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本校の〇〇〇研究発表会を〇月〇日（ ）に開催致します。

つきましては、みだしのことについて、下記の通りご協力をお願い申し上げます。

記

- 1 期 日 平成〇年〇月〇日（ ）
- 2 時 間 午後〇時～午後〇時
- 3 集合時刻 午後〇時〇分
- 4 集合場所 家庭科室
- 5 係 分 担

係名	場 所	人	仕 事 内 容	担 当 者	備 考
接 待	湯 沸 室	2	湯の準備		
	校 長 室	1	来賓への湯茶の接待		
	図 書 室	2	役員への湯茶の接待		
	1階廊下	2	一般参加者への湯茶・菓子接待		
	2階廊下	2	同上		
	3階廊下	2	同上		
	体 育 館	6	参加者への湯茶・菓子の接待		

係名	場 所	人	仕 事 内 容	担 当 者	備 考
案 内	玄 関	2	来賓・役員の案内、スリッパの世話		
		2	一般参加者の案内、スリッパの世話		ビニル (靴・傘)
受 付	玄 関	1	来賓・役員の受付		
		3	一般参加者の受付		
駐 車 場	運 動 場	4	参会者車両の駐車場への誘導		
		4	参会者車両の駐車場でのご案内		

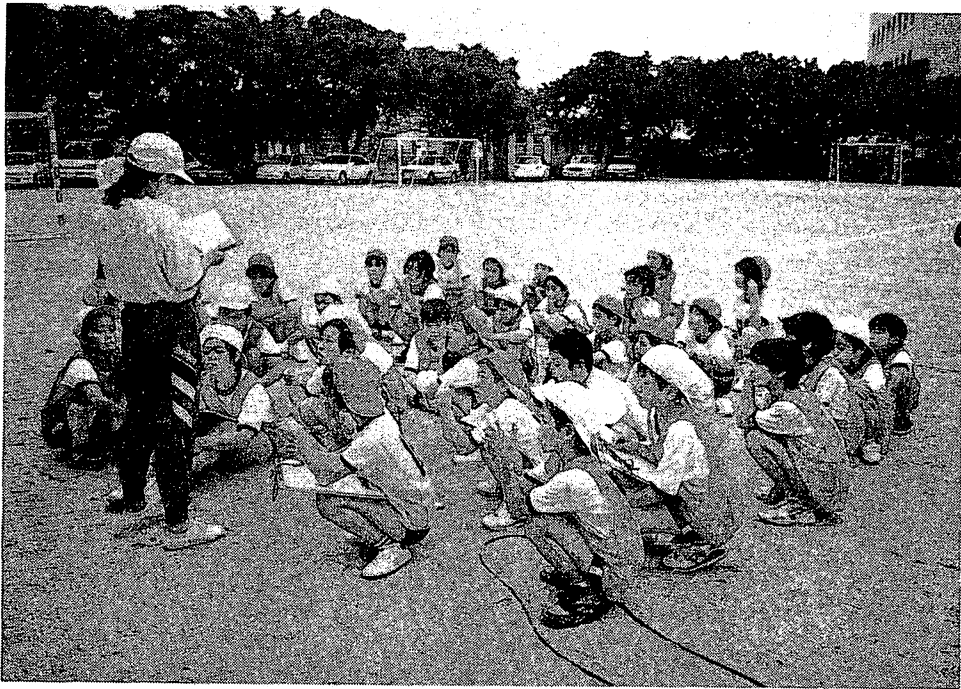
6 その他

- (1) 服装について …………… 接待・案内係の皆様は、落ち着いた色合の服装でお願い致します。例：ブラウスは白系等、スカートは黒系統等
- (2) 茶菓子は、分科会開会前に児童の下校を見計らって出してください。
- (3) 前日準備と点検

係 名	準 備 物 と 諸 点 検	責 任 者
接 待	□テーブル □花ポット □紙コップ □お茶 □茶菓子 等の準備	
案 内	□スリッパの準備確認 □トイレトペーパーの有無確認	



# 資料



内間小学校

**資料1**

研究主任のアンケート (抜粋中学校)

浦添市立教育研究所

- 1 目的 市立小・中学校の校内研究の実態を把握し、「校内研究運営資料集」作成の資料にする。
- 2 方法 研究主任に対する質問紙法（5内容・結果のアンケート）で実施する。
- 3 時期 平成9年7月
- 4 対象 市立小学校研究主任（11名）、中学校研究主任（5名）計16名
- 5 内容・結果

1 このアンケートは、校内研究の実態等についてお尋ねするものです。研究主任の立場から学校全体の実態をとらえてお答えください。研究主任1年目で答えにくい部分が有りましたら、（可能でしたら）前任者と相談してお答えください。

2 回答は、番号に○をご記入ください。その他の場合は、語句あるいは文章でお答えください。

質問：現在の勤務校種と研究主任の経験年数をお聞かせください。研究主任 本校で（ ）年目、他校で（ ）年

結果：

	A	B	C	D	E
本校での経験年数	1	1	1	1	1
他校での経験年数	1		1	0	0

調査項目	質問・選択肢	順	集計結果
校内研究 計画の作成	質問1 校内研究計画は、どのように作成していますか。	1	回答数 1 2 3 4 5
	① 長期計画（2～3年）のもとに年次計画を作成	①	
	② 1年間を見通して月ごとの計画を作成	②	4校
	③ 1年間を見通して学期ごとの計画を作成	③	1校
	④ 年間計画を立てずに必要に応じて研修を実施	④	
校内研究 日の設定	質問2 校内研究日は、どのように設定していますか。（複数回答可）	2	回答数 1 2 3 4 5
	① 年間の予定表に研究日を設定している	①	5校
	② 毎週、曜日（時間）を設定している	②	
	③ 月の第何週の何曜日を設定している	③	2校
	④ 特に設定していないが必要に応じて設定する	④	

校内研究 企画推進 の主たる 担当者	<p>質問3 校内研究の企画、推進の主たる担当者についてお答えください。</p> <p>① 教頭</p> <p>② 教務主任</p> <p>③ 研究主任</p> <p>④ 研究推進委員会</p> <p>⑤ 企画委員会または運営委員会</p> <p>⑥ 研究教科主任</p>	3	回答数	1 2 3 4 5
特に重視 している 研究機会	<p>質問4 校内研究を進めるに当たり、特に重視している研究の機会についてお答えください</p> <p>① 全体研究</p> <p>② 学年研究</p> <p>③ 教科別研究</p> <p>④ 領域・課題別研究</p> <p>⑤ 個人研究</p>	4	回答数	1 2 3 4 5
校内研究 の形態	<p>質問5 校内研究の形態についてお答えください。(複数回答可)</p> <p>① 授業研究</p> <p>② 理論研究</p> <p>③ 講話</p> <p>④ 実技・実習</p> <p>⑤ 事例研究</p> <p>⑥ 研究発表</p> <p>⑦ 伝達講習</p> <p>⑧ その他(巡検)</p>	5	回答数	1 2 3 4 5
	<p>質問6 研究仮説の設定についてお答えください。</p> <p>① 研究仮説を設定している</p> <p>② 研究仮説を設定していない</p>	6	回答数	1 2 3 4 5
研究テーマ設定で 特に重視 したこと	<p>質問7 研究テーマの設定に当たって、特に重視したことについてお答えください。(複数回答可)</p> <p>① 学校教育目標との関連</p> <p>② 地域や児童・生徒の実態</p> <p>③ 前年度の研究の成果や反省</p> <p>④ 教師の意見や願い</p> <p>⑤ 校長の経営方針</p> <p>⑥ その他( )</p>	7	回答数	1 2 3 4 5
研究授業 実施状況	<p>質問8 研究授業の実施状況についてお答えください。</p> <p>① 年間の研究計画に基づいて実施計画を立てて行っている</p> <p>② 計画は、立てないが研究の進行状況により実施している</p> <p>③ 特に研究授業は、実施していない</p>	8	回答数	1 2 3 4 5

研究授業者の決定方法	<p>質問9 研究授業を実施する際の授業者の決定方法についてお答えください。</p> <p>① 学校全体で年間を見通して決定している</p> <p>② 学年(部)・教科ごとに協議している</p> <p>③ 輪番制で決定している</p> <p>④ 各教師の自主的な発意でもって決定している</p> <p>⑤ その他( )</p>	9	<p>回答数</p> <p>① 3校</p> <p>② 1校</p> <p>③</p> <p>④ 1校</p> <p>⑤</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>
校外での研修の校内研究への活用	<p>質問10 校外での研修などを校内研究でどのように活用していますか。</p> <p>① 研究内容を印刷し、全職員に配布している</p> <p>② 必要な内容について口頭で行っている</p> <p>③ 印刷物や資料等を整理して活用の便を図っている</p> <p>④ その他(必要な内容について印刷し、全職員が研修している。)</p>	10	<p>回答数</p> <p>① 2校</p> <p>② 1校</p> <p>③ 1校</p> <p>④ 1校</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p>
研究集録作成の有無	<p>質問11 研究集録(紀要)作成の有無についてお答えください。</p> <p>① 毎年作成している</p> <p>② 研究がまとまったときに作成する</p> <p>③ 特に作成していない</p>	11	<p>回答数</p> <p>① 3校</p> <p>② 1校</p> <p>③ 1校</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>
校内研究の盛り上がり状況	<p>質問12 校内研究の盛り上がりの状況について、どのようにお感じになっていますか。</p> <p>① 大いに盛り上がっている</p> <p>② 盛り上がっている</p> <p>③ どちらかといえば盛り上がっている</p> <p>④ あまり盛り上がっていない</p> <p>⑤ 盛り上がっていない</p>	12	<p>回答数</p> <p>①</p> <p>② 1校</p> <p>③ 2校</p> <p>④ 2校</p> <p>⑤</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>
校内研究の評価	<p>質問13 校内研究の評価をどのように行っていますか。</p> <p>① 学校評価の一部として実施している</p> <p>② 校内研究単独で実施している</p> <p>③ 特に実施していない</p> <p>④ その他( )</p>	13	<p>回答数</p> <p>① 3校</p> <p>② 1校</p> <p>③ 1校</p> <p>④</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p>
校内研究運営上の課題点	<p>質問14 校内研究運営上特に課題に感じていることを3つ選んでください。</p> <p>① 研究課題の発見</p> <p>② 研究テーマ・内容の決定</p> <p>③ 教師の意欲喚起</p> <p>④ 授業者の選定</p> <p>⑤ 研究時間の確保</p> <p>⑥ 研究内容に係わる資料収集</p> <p>⑦ 研究発表会の企画・運営</p> <p>⑧ 予算の不足</p> <p>⑨ 研究集録(紀要)のまとめ方</p>	14	<p>回答数</p> <p>①</p> <p>② 2校</p> <p>③ 3校</p> <p>④ 2校</p> <p>⑤ 4校</p> <p>⑥ 1校</p> <p>⑦ 1校</p> <p>⑧</p> <p>⑨ 1校</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p> <p>⑧</p> <p>⑨</p>

	⑩ 校内研究評価の方法 ⑪ 指導主事等との連携 ⑫ その他 ( )	⑩ ⑪ ⑫		
工夫点・ 意見	<p>質問15 校内研究運営上の工夫点やご意見等がありましたらご記入ください。</p> <p>(工夫点)</p> <p>① 企画立案は、研究主任がやるが、研修係で検討会を持ち、その上で企画委員会、職員会議というふうには、より多くの人の意識を高めるよう取り組んでいる。</p> <p>② 校内のみの研修に終始しないように校外研修(施巡り)とか校内・校外から講師を招聘し、視野を広げるよう努力している。</p> <p>(意見)</p> <p>① 最近、教科・領域その他での研修が多すぎて、教師は、負担加重である。もっと横の連携をとって研修を進めてさせて欲しい。結局は、形式的取り組みになってしまい深みのない研究になってしまうきらいがあると思う。主催者、依頼側は、「できる範囲で良いからとか」言ったり、ただ形式的でも取り組んだと言う満足感に浸っているのでは。研究主任は、いたばさみ。立場を理解して欲しい。</p> <p>② 多忙に拍車がかかっているのでは。</p> <p>③ 県・市指定の研究とは、別に校務分掌上の位置付けとして校内研主任があり、月々研修会がテーマ毎に実施されている。推進委員会がないため、主任は、運営上色々な問題に困難する場面がある。</p>			

日 時 平成 年 月 日 ( ) 校 時  
 学 級 年 組 男子 名, 女子 名  
 授業者 印

### 1 単元名 (題材名, 議題, 主題名)

### 2 単元 (題材, 議題, 主題) の目標

単元全体の目標をあげる。総括目標, 具体目標, 観点別目標に分けてあげる場合もある。学習指導案の中で最も重要なもので, 十分に検討し, 具体的に述べる。

「……を理解する, ……を養う」という大きなとらえ方でなく, 「……することができる。」と表現するのが, より具体的な表し方である。

### 3 単元について (主題設定の理由)

#### (1) 教材観

本単元の系統的な位置づけ, この主題を設定したわけ, 本単元における目標を示す。また, 教材をどうみるか指導者の考えなどを述べる。

#### (2) 児童生徒観

本単元に関する児童生徒の既習事項について指導書などをもとに述べる。

本単元に関する児童生徒の日常生活の中での経験等の実態について述べる。

#### (3) 指導観

本単元の目標達成のために, 学校教育目標及び研究テーマ等も考慮してどのような指導でのぞむのか自分の考えを述べる。

### 4 指導計画 (12時間)

単元全体をいくつかの指導区分に分ける。普通は第1次, 第2次……とし, 指導内容, 学習課題, 学習方法などにもとづいて, それぞれの時間配当をする。

〈例〉

第1次	豆電球のつなぎ方(3)2/3 輯	第4次	乾電池とモーター(2)
第2次	乾電池のつなぎ方(3)	第5次	豆電球の弱まり方(2)
第3次	回路を流れる電流(2)		

### 5 本時の学習

#### (1) 題材名

#### (2) 目標

本時の指導でねらっているものを簡潔明瞭, 具体的に示す。態度・意欲, 技能, 能力, 理解面などに分けて示すこともある。

〈例〉

豆電球2個と乾電池1個を使って, 豆電球の明るいつなぎ方や暗いつなぎ方ができる。

#### (3) 授業仮説

本時の目標を達成するために仕組んだ場と, そこでの指導の手立てを明確に記述する。

〈例〉

豆電球の明るさの違う2台の自動車模型(ブラックボックス)を同時に提示し, その明るさの違うわけを話し合う場とグループで調べる場を設定することによって, 子供たちは豆電球の明るいつなぎ方や暗いつなぎ方ができるであろう。

#### (4) 準備

教具・資料・教材などを, 学習指導に必要なものをあげる。教師用・児童生徒用に分けて示すこともある。

(5) 展 開

学習活動・内容	児童生徒の反応	資 料	教師の支援
本時の目標を達成するために、導入、展開、整理などに分けて計画を立てる。	学習活動・内容に対応した予想される児童生徒の反応や考えをあげる。		支援することや、留意することを述べる。 (作業の要点、観察の要点、危険防止など。) 指導の手立を述べる

(6) 評 価

目標に照らし合わせて評価の内容をあげる。評価は、観点別に態度・意欲、技能、知識などに分けて行なうこともある。

方法としては、ペーパーテスト実施、チェックリストをもとに評価する、その他の記録によるなどいろいろな方法がある。

「 」授業分析表							
日時	平成 年 月 日( ),			校時	授業者		
単元名				学級	学校 年 組 人		
経過時間	学習活動					指導の手立て:	
	一斉	個別	発表	討議	評価	授業記録	◎指導の手立
5							
10							
15							
20							
25							
30							
35							
40							
45							
所見(指導の手立て検証の観点から)							



授業形態	授業者のようす			抽出児のようす (チェックリスト)																			観 察 メ モ					
				発言		私語		作 業					注 目															
	意 図	発 問	指 示	授 助	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		19	20	21	22	23
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
5																												
10																												
15																												
20																												
25																												
30																												
35																												
40																												
45																												
50																												

抽出児の発容をみる視点.

ア. なるほどと納得する。(自分自身の言葉で説明できる)	キ. 勉強したい、解決したくたくたくする、という状態になる。	ズ. 自分の個性(よさ)に気づき、それを伸ばそうとする。
イ. 論理的にとらえる。(論理的・創造的な考えができる)	ク. 学習に真剣に取り組み、集中する。	セ. 友人の個性(よさ)を多様な見方で認める。
ウ. 理解したことの価値が分かる。(経験として活用できる)	ケ. 解決への達成感や新たな学習意欲を高める。	ソ. 自分の考えの質化の促まりを自覚し、さらにそれをめどした行動をとろうとする。(自分の言動に自信と責任が持てる)
エ. 目的のために進んで協同する。(自他の役割や行動の価値がわかる)	コ. 自ら問題を見だし、目標を定めて挑戦しようとする。	タ. 自己評価の必要を感じ、自ら評価を高めるとともに、修正しようとする。
オ. 進んで友人を援助する。	ク. 事実に向き、自分の考えを持とうとする。	チ. 友人のよさを認め、進んでそれを取り入れようとする。
カ. 自分が役立つ喜びを実感し、さらに価値ある行動を志す。	シ. わびり強く対応しようとする。	

## 1 校内研究評価の目的

研究の成果を確認するとともに、次年度の計画を立てるた

【評価】 1 (不十分) 2 (やや不十分) 3 (普通) 4 (ややよい) 5 (よい)

観 点	評定尺度	年 意 見
1 研究主題の設定は適切であったか。	1 2 3 4 5 L L L L I	
2 研究内容の設定は適切であったか。	1 2 3 4 5 L L L L I	
3 研究方針の設定は適切であったか。	1 2 3 4 5 L L L L I	
4 研究の組織や運営は適切であったか	1 2 3 4 5 L L L L I	
5 研究計画は適切であったか。	1 2 3 4 5 L L L L I	

※  
清  
書  
し  
て  
下  
さ  
い  
。

観 点	評定尺度	年 意 見
6 研究過程に無理やむだはなかったか	1 2 3 4 5 L L L L I	
7 教師の研究への取り組みは良かったか	1 2 3 4 5 L L L L I	
8 教師の教材研究・授業研究の方向や努力の程度は十分であったか。	1 2 3 4 5 L L L L I	
9 指導過程に無理やむだはなかったか	1 2 3 4 5 L L L L I	
10 研究資料の収集・活用は十分であったか。	1 2 3 4 5 L L L L I	
11 講師の指導助言の機会は適切であったか。	1 2 3 4 5 L L L L I	

観 点	評定尺度	年 意 見
12 研究内容ほどの程度達成されたか。	1 2 3 4 5 I I I I I	
13 研究によってどの程度児童が変容したか。	1 2 3 4 5 I I I I I	
14 研究の評価の方法や結果の活用は適当であったか。	1 2 3 4 5 I I I I I	
15 研究の評価の観点は適切であるか。  (評価の観点で不適切と考えられるものの修正案記入)	1 2 3 4 5 I I I I I	

1～5計画 (Plan) 6～13実施 (Do) 14～15評価 (See) の視点です。

観 点	年 意 見
16 その他研究全般に関する内容や上記の観点に含まれていない内容。	

# 第二年次 研究集録作成分担

## 目 次

	担当者	頁数
はじめに .....	校長	1
《研究の概要》		
I 研究の基本的な考え方 .....		
1 研究主題 .....		
2 主題設定の理由 .....		
3 副主題及び研究仮説 .....		
4 研究方針 .....		
II 研究の全体構想 .....		
III 研究計画 .....		
IV 研究組織と役割分担 .....		
1 組織図 .....		
2 役割分担 .....		
V 研究の経過 .....		
研究発表会実施要項（二年次）		
《読書指導部の研究概要》 .....	読書指導部	
I 研究の基本的な考え方 .....		
1 読書指導部の仮説と研究方法 .....		
2 二年次の研究の流れ .....		
3 読書指導部の具体目標 .....		
4 読書指導部の研究仮説 .....		
5 生徒会図書委員会年間活動計画 .....		
6 読書指導部の年間指導計画 .....		
II 研究の実際 .....		
1 朝の読書活動 .....		
2 読書強調月間 .....		
3 学級活動における読書指導の取り組み .....		
4 読書教育講演会 .....		
5 読書アンケート .....		
6 「コンピュータ統計による多読本一覧」の考察 .....		
7 参考資料「学校図書管理システムコンピュータ 導入後の報告」 .....		
《利用指導部の研究概要》 .....		
..... 略 .....		
《教科指導部の研究概要》 .....		
..... 略 .....		
《研究の成果と今後の課題》		
I 研究の成果と課題 .....		
II 参考文献 .....		

## 「第三年次研究集録」印刷要領

製版方法		写真製版（業者へ依頼）						
原稿	版	A4版左綴じ						
	書式	40列×35行(罫) 上余白3㎥, 下余白2, 左余白3, 右余白2						
	書体	ワープロ明朝体 (      ポイント)						
	提出期限	月 日 まで(ワープロ原稿で1部)						
用紙		表紙	色(青)	質(      )	本文	色(白紙)	質(      )	
		間紙	色(緑)	質(      )				
校正回数		なし	第一校	月 日 ～ 月 日	第二校	月 日 ～ 月 日	第三校	月 日 ～ 月 日
作成部数		100部						
納期		平成7年 月 日						
レベル		に準ずる。						
分担原稿 スタートレベル		_____先生						

# 校内研究運営参考図書

## 学校における教育研究のすすめ方

昭和56年4月1日 初版発行  
昭和62年8月15日 7版発行

編集 群馬県教育研究所連盟  
(細谷 善男)

発行者 錦 織 登 美 夫

東京都千代田区神田淡路町2の13  
発行所 株式会社 東洋館出版社  
電話・東京(253)8821代~4  
振替口座・東京 8-96823 番

印刷・三浦企画印刷  
落丁・乱丁本はおとりかえいたしますので  
御返本下さい。  
ISBN 4-491-00303-3

## 学校の教育研究の進め方 —テーマ設定から紀要づくりまで—

昭和62年7月25日 初版発行 定価 1,800円

編者 日本教育新聞社

発行者 高橋 時春  
発行所 日本教育新聞社出版局  
〒150 東京都渋谷区恵比寿西2-17-21  
電話 東京03(464)0043(出版局直通)  
編替 東京5-196500

印刷所 株式会社 九井工 文 社

©1987 横印省略 乱丁・落丁はお取り替えます。  
ISBN4-930821-76-2 C3007 ¥1800E

## 小学校 校内研修の進め方 1980

昭和55年1月20日 初版第1刷発行 定価 1,000円  
昭和56年1月20日 初版第2刷発行

編者 生島 信夫  
発行者 穴戸 英健  
東京都渋谷区宮前3丁目12-16

印刷者 成島 秀信  
東京都千代田区三軒町2丁目21-5

発行所 株式会社 文教書院  
151 東京都渋谷区宮前3丁目12-16  
電話 東京 (03) 467-8231(代)

落丁・乱丁本はおとりかえいたします 印刷・製本/株式会社 ヴィエムエス  
ISBN4-8338-8003-2 C3037

## 実践的研究のすすめ方

—新しい教育の創造—

平成6年11月25日 初版発行  
平成7年4月10日 2版発行

編者 群馬県教育研究所連盟  
(岩井 栄寿)

発行者 錦 織 登 美 夫

東京都千代田区神田淡路町2の13  
発行所 株式会社 東洋館出版社  
電話・東京 03(3253)8821代  
振替 00180-7-96823

Printed in Japan ISBN4-491-01140-0

## 新訂 校内研究のすすめ方

昭和55年7月20日 初版発行 定価 2,500円  
平成2年4月10日 18刷発行 (本体 2,427円)  
平成3年12月1日 新訂初版発行  
平成4年4月30日 2刷発行

編者 福岡県教育研究所連盟◎

発行者 田中 富彌

発行所 第一法規出版株式会社  
〒107 東京都港区南青山2-11-17  
電話 03-3404-2251  
編替 東京3-133197

ISBN4-474-09053-5 C2037(0) (横印省略)

## 中学校 校内研修の進め方 1979

昭和54年2月10日 初版第1刷発行 定価 1,000円  
昭和56年3月20日 初版第2刷発行

編者 岡 喜三  
発行者 穴戸 英健  
東京都渋谷区宮前3丁目12-16

印刷者 近藤 謙  
東京都千代田区三軒町4丁目9-5

発行所 株式会社 文教書院  
151 東京都渋谷区宮前3丁目12-16  
電話 東京 (03) 467-8231(代)

3037-0000-7374

落丁・乱丁本はおとりかえいたします 印刷・製本/株式会社 ヴィエムエス  
ISBN4-8338-8003-2 C3037

## 「研究校」の手引き —研究計画の立て方から発表までの工夫—

1991年12月25日 初版第1刷  
1992年4月25日 第2刷

編著者 新井 郁 男  
牧 田 章  
金 澤 孝

発行者 錦 織 登 美 夫

発行所 株式会社 東洋館出版社  
101 東京都千代田区神田淡路町2-13  
振替口座 東京 8-96823  
電話 (03) 3253-8821(代)

印刷所 奥村印刷株式会社

Printed in Japan ISBN4-491-00880-9

## 校内研究事典

昭和59年8月7日初版発行 定価2,400円(送料300円)

監修者 奥田 真文  
編纂者 杉山 光男  
尾木 和英

発行所 株式会社 ゼンゴ

本社 東京都中央区銀座7-4-12  
営業所 東京都新宿区西五軒町52  
郵便番号 162  
電話 (03)268-2141(大代表)  
振替 東京 4-10,000番

(横印省略) 印刷 行政学会印刷所(U) 製本 大口製本印刷(株)  
乱丁・落丁本はおとりかえします。  
3037-911510-1505

## 学校現場における 実証的な教育研究の進め方と論文の書き方

1986年5月25日 初版発行  
1993年7月31日 5版発行

著者 西田 雄行

発行者 株式会社 東洋館出版社  
東京都千代田区神田淡路町2-13  
電話 東京(3253)8821(代)~4  
振替口座 東京 8-96823  
(印刷 亨有堂、製本 誠製本)

落丁・乱丁などの不完全な品がありましたら、直接お申し出ください。  
お取り換えます。

ISBN4-491-00524-9

## 教師が育つ校内研修PDS

昭和62年9月15日 初版発行  
昭和62年12月15日 2刷発行  
定価 2500円

編者 福岡県校内研修研究会◎  
発行者 田中 重弥

発行所 第一法規出版株式会社

〒107 東京都港区南青山2-11-17  
電話 03-404-2251  
振替 東京3-133197

ISBN4-474-04690-0 C2037 (4)

## 教育研究のすすめ方・論文のまとめ方

昭和56年7月20日初版発行 定価 1,000円  
昭和63年4月25日12刷発行

編者 福岡県教育研究所連盟◎

発行者 田中 重弥

発行所 第一法規出版株式会社  
〒107 東京都港区南青山2-11-17  
電話 03-404-2251(代)  
振替 東京 3-133197

ISBN4-474-04420-7 C2037(6) (横印省略)

1 **課題を共同で追究する授業づくり**  
地域素材「さつまいも」を生かした歴史学習を通して  
「」・「」・「」・「」・「」

5 **研究の目標**  
1. 課題を共同で追究する授業づくりの意義と有効性を明らかにする。  
2. 地域素材の教材化及び現教材との互換性をふまえた対照表づくり  
「」・「」・「」・「」・「」

10 **課題**  
発表  
討議  
課題追究  
他のグループとの共同研究へ  
グループの再編による別の芋との共同研究へ  
「」・「」・「」・「」・「」

14 **社会科（歴史）が好きか**  
授業前  
授業後  
どちらでもない 58%  
32%

2 **テーマ設定の理由**  
期待される児童の  
「」  
何をどう考えているのか  
知識はあるが...  
誰とどの人間関係（自己表現が苦手）  
ふたりに知識、観察力、不満  
「」・「」・「」・「」・「」

6 **1. 地域素材を教材化する意義**  
(1) 具体的な操作から物事の論理関係を知る時期  
具体的な教材(地域の素材)  
(2) 幼い頃の体験が物事を判断する基準  
地域やそこに住む人の営み  
「」・「」・「」・「」・「」

11 **実際の授業の流れ**  
「けん玉から何が学習できる？」  
さつまいもで学習したいことを見つけよう  
調べたことを発表しよう(準備)  
調べたことを発表しよう(発表)  
発表の関連づけと新しい課題の発見  
新しい課題の調査と発表しよう(準備)  
研究の発表とまとめ  
「」・「」・「」・「」・「」

15 **沖縄の歴史に興味があるか**  
授業前  
授業後  
ある 35%  
ない 53%  
32%

3 **授業の工夫**  
課題共同追究の授業づくり  
「」  
「」  
授業の持ち方(異動) 授業の進め方  
自分の課題を共同で研究、発表  
研究結果の関連づけ  
「」・「」・「」・「」・「」

7 **地域素材教材化の視点**  
1. 地域とは  
2. 地域学習のねらい  
3. 地域素材によって得られる成果  
4. 教材化する素材の選考の視点  
5. 教材化の留意事項  
「」・「」・「」・「」・「」

12 **子どもの総括**  
授業の良かったところ  
発表や討議  
内容の理解  
学習のまとめ方  
共同学習  
学習の方法  
教師の笑顔  
16.7%  
12.5%  
「」・「」・「」・「」・「」

16 **成果**  
1 見通しを持てた  
2 学習内容を理解していた  
3 意欲的に活動した  
4 自信を持って発表した  
5 興味・関心が高まった  
6 成就感、満足感があつた  
「」・「」・「」・「」・「」

4 **研究の仮説**

視点と学習方法	課題追究の共通し	意欲向上
自分の課題共同で追究	主体的学習 協力、安心感	学習内容の理解 自信、自己表現
研究発表の関連づけ	成果が認められる 他の研究もわかる	高度な、高次元の学習への関心 意欲向上
地域の素材	リアリティ	興味・関心

8 **課題**  
「」  
「」  
「」  
「」  
「」  
「」

13 **子どもの総括**  
授業でなおして欲しいところ  
学習態度  
学習のまとめ方  
共同学習  
学習の方法  
教師の笑顔  
4%  
12.0%  
24.0%  
40.0%  
「」・「」・「」・「」・「」

17 **課題**  
1 わかりやすい資料の準備  
2 ゆとりを持った計画  
3 安全確保や家庭・地域との連携  
「」・「」・「」・「」・「」

## 参 考 文 献

- 西田雄行『学校現場における実証的な教育研究の進め方と論文の書き方』東洋館出版社  
1993年7月31日
- 那覇市立教育研究所『紀要336号研究推進の手引き』  
平成4年4月30日
- 杉山光男『校内研究事典』ぎょうせい  
昭和59年8月7日
- 福岡県教育研究所連盟『新訂校内研究のすすめ』第一法規出版株式会社  
平成4年4月30日
- 日本教育新聞社『学校の教育研究の進め方』日本教育新聞社  
昭和62年7月25日



編 集 者

研究協力員

浦添市立浦城小学校教諭 手登根 宏

浦添市立宮城小学校教諭 前 城 努

研究協力員担当

市立教育研究所指導主事 嵩 原 安 哲

平成9年度研究協力員報告書

校内研究運営資料集 平成10年2月発行

---

発行所	浦添市立教育研究所
所在地	901-2501 浦添市字仲間318番地
電 話	098(876)7522
F A X	098(876)7222

---